取扱説明書

ペレットストーブ

日陽 / PS-1312F

○ お客様へ

■ この取扱説明書と保証書をよくお読みの上、正しくお使いください。
使用後は大切に保管し、必要なときにお読みください。
■ 保証書は「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店から
お受取りください。
■ この製品の取り付けには専門的な知識が必要です。据付けや取り替えの
際はお買い求めの販売店にご依頼ください。

○ 据付けをされる方へ

■ この取扱説明書をよく読み、十分理解した上で作業してください。
■ 据付け完了後、この取扱説明書をお客様にお渡しください。

株式会社 山本製作所

目　次

重要なお知らせ 1

1　安全上のご注意 2

1.1　警告表示について 2
1.2　使用上のご注意 3
1.3　警告ラベルについて 7
1.4　安全装置について 9

2　各部の名称とはたらき 10

2.1　外観図 10
2.2　構造図 11
2.3　操作パネル 13

3　使用前の準備と確認 14

3.1　燃料の準備 14
3.2　ロストル囲いの取り付け 15
3.3　燃料の補給 16
3.4　周囲の確認 17

4　使いかた 19

4.1　点火のしかた 19
4.2　消火のしかた 21
4.3　火力の変更のしかた 22
4.4　時刻合わせのしかた 23
4.5　タイマー運転のしかた 24
4.6　クリーニング機能（1） 26
4.7　クリーニング機能（2） 27
4.8　運転時間確認機能 28
4.9　点火時のペレットの量の調整のしかた 29

5　日常の点検・手入れ 31

5.1　定期点検表 31
5.2　ロストルの掃除 32
5.3　灰受の掃除 34
5.4　窓ガラスの手入れ 36
5.5　クリンカの掃除 37
5.6　バッフルの掃除 40
5.7　本体と温風吹出口の掃除 43
5.8　給排気筒トップの点検 44
5.9　給排気筒の点検 46
5.10　販売店による定期点検 46

6　部品交換のしかた 47

6.1　ロストル囲いの交換 47

7　故障・異常時の対応 49

7.1　こんな症状が出たら 49
7.2　こんな表示が出たら 52

8　地震などの災害が発生したら 55

9　保管（長期間使用しない場合） 56

10　仕様 58

11　保証とアフターサービス . . 59

12　付属品、添付品リスト 60

お客さま相談窓口 61

重要なお知らせ

■使用目的・用途について

- この商品は、木質系バイオマスペレット（以降木質ペレットと記す）を燃料とするストーブで、室内の暖房を行うためのものです。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のペレットストーブの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

■取扱上の注意

- 据付けについては、消防関係法令（消防法、消防法施工令、火災予防条例）などの基準があります。設置工事については、お買い求めの販売店または据付業者に依頼してください。
- この「取扱説明書」は、ペレットストーブ PS-1312F型（以降ストーブと記す）の安全に関する事項、操作手順および点検整備の手順を説明しています。
  株式会社山本製作所（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、ストーブを改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- ストーブの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびストーブ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては充分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成しています。日本語を母国語としない人がこのストーブを取り扱う場合は、取扱者に対して安全指導を徹底してください。

■譲渡について

- このストーブは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格などの適用・認定などは実施していません。このストーブを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故などによる補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- このストーブを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書をストーブに添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。

■その他の注意

- この取扱説明書の内容はストーブの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- このストーブとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、ストーブ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い求めの販売店」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い求めの販売店」へお問い合わせください。

1　安全上のご注意

1.1　警告表示について

お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷などを負う可能性、または火災の可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される」内容です。
！ お願い	この表示の欄は、「製品のために守っていただきたいこと」の内容です。（故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと）
お知らせ	この表示の欄は、「知っておいていただきたいことや知っていると便利なこと」の内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	高温による傷害を負うおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		接触禁止
	この装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。		ガソリン禁止

行為の強制

	この装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。

1.2 使用上のご注意

■使用にあたって

⚠ 危険



点火などの目的でガソリンなど揮発性の高い油を絶対に使用しない。

※ 火災の原因になります。

⚠ 警告

スプレー缶をストーブ周囲に放置しない。

※ 熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発するおそれがあります。

ライター・マッチなどで点火しない。

※ やけどの原因になります。

灰受には紙・布などは入れない。

※ 使用前に必ず点検してください。発熱、発火の原因になります。

分解修理・改造の禁止。

※ 故障、破損したら、使用しないでください。
異常燃焼や火災の原因になることがあります。

電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用やタコ足配線をしない。

※ 発熱、発火の原因になります。

電源コードを傷めない。

※ 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。守らないと、火災や感電の原因になります。

衣類などの乾燥には使用しない。

※ 衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む。

※ 守らないと、火災の原因になります。

電源は交流100Vのコンセントで使用する。

※ 守らないと、発熱、発火の原因になります。

燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。

※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

⚠ 警告

ストーブが動作中（運転中、消火動作中、エラー処理動作中などを含むすべての動作中）は電源プラグを抜かない。

※ 守らないと、火災や故障の原因になります。

⚠ 注意

ストーブの上に花びんなどの水のこぼれやすい物を置かない。

※ 水の入った容器や物を上にのせないでください。
水が内部に入ると感電や故障の原因になることがあります。

ストーブの上にのったり、物を置かない。

※ 本体の上にのらないでください。
天板がへこんだり、やけどのおそれがあります。

木質ペレット燃料以外の物をタンクに投入しない。

※ 故障の原因になります。

変質した燃料を使用しない。

※ 異常燃焼や故障の原因になることがあります。

初めて使用するとき注意する。

※ ご購入後初めて使用されるときは、防錆油や塗装が焼けるため、煙やにおいが出ることがあります。窓を開けて部屋の換気をしてください。

燃料（木質ペレット）の取扱注意。

※ 特に乳幼児が誤って口に入れないように注意してください。

■使用する場所

⚠ 警告

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しない。

※ 火災が発生するおそれがあります。

⚠ 注意

スプレーや化学薬品を使用する場所で使わない。

※ 健康を害したり、故障の原因になることがあります。

マントルピースなどストーブが囲われる場所には据付けない。

※ 本体が高温になり、故障の原因になることがあります。

■使用中

⚠ 警告

燃焼中や消火直後は、高温部、給排気筒に手などふれない。 ※ やけどをするおそれがあります。小さいお子様のいるご家庭では市販のガードを設置してください。	**衣類、紙などで温風吹出口をふさがない。** ※ 異常燃焼や火災の原因になります。
可燃性ガスを発生するもの（ベンジン､シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しない。 ※ 火災や故障の原因になります。	**運転中は温風吹出口に手や顔を近づけない。** ※ けがのおそれがあります。
運転中は燃焼室扉を開けない。 ※ やけど・けが・爆発燃焼のおそれがあります。	**異常時使用しない。** ※ におい、スス、煙発生などの異常を感じたときは、使用しないでください。火災や異常燃焼のおそれがあります。
温風吹出口に異物を入れない。 ※ 温風吹出口や吹出口内部に紙、布、プラスチックや、マッチ、ガスライターなどを入れないでください。 発火や破裂の原因になります。	**寝るときや外出するときは、運転を停止（消火）する。** ※ 守らないと、事故が発生するおそれがあります。
運転中は、タンクフタを完全に閉める。 ※ 異常燃焼や火災の原因になります。	

⚠ 注意

電源プラグを抜いて消火しない。 ※ 消火後、送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。 天板が高温になり、やけどや故障の原因となります。	**ぬれた手で電源プラグを差したり、抜いたりしない。** ※ 感電の原因となります。
ストーブの上にやかんなどをのせない。 ※ 振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどや感電、故障の原因になります。	

■点検・手入れ・保管

⚠ 警告

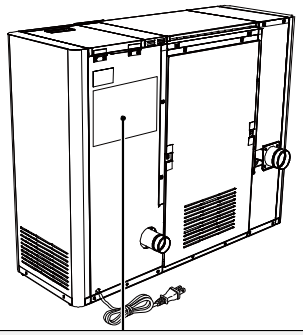
給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。 ※ 排気ガスが室内に洩れて危険です。	**給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか確認する。** ※ 排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因になります。
長期間使用しないときは電源プラグを抜く。 ※ 守らないと、火災や事故の原因になります。	**ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去する。** ※ ほこり等がたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。
ストーブの周囲は常に整理・整頓し、ほこりなどがたまらないように掃除する。 ※ 守らないと、火災の原因になります。	**灰受の灰を定期的に捨てる。** ※ 灰受がいっぱいになったあとも使用を続けると、火災や事故の原因になります。
灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。 ※ やけど・けがや火災のおそれがあります。	

⚠ 注意

傾けたり、横倒した状態では保管しない。 ※ 故障の原因となります。	**本体を廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料（木質ペレット）を抜く。** ※ 燃料（木質ペレット）が入ったまま廃棄すると事故になるおそれがあります。
手入れは、消火後ストーブが充分冷えてから行う。 ※ やけど・けがの原因になります。	**点検は、消火後ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行う。** ※ やけど・けがの原因になります。
交換部品は、純正部品を使う。 ※ 他の部品を使用するとけがや事故の原因となります。	**正常な機能を維持するために定期点検を行う。** ※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

1.3 警告ラベルについて

- このストーブには、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買い求めの販売店へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買い求めの販売店へご注文ください。



ご使用になる前に取扱説明書、注意書を必ずお読みいただき安全に正しくお使いください。

燃　料

- 木質系ペレット燃料（ホワイト・全木）をご使用ください。

⚠注意 木質ペレット燃料以外は使用しないでください。（燃焼不良の原因となり、支障をきたすおそれがあります。）

燃料補給

- 補給する量は蓋が完全に閉まる程度にして、運転中は必ず蓋をしてください。

⚠注意 木質ペレット燃料以外の物を投入しない。（故障の原因になります。）

点　火

- 「運転入／切」ボタンを押してください。（運転ランプが点灯し、自動点火します。）
- 「表示切替」ボタンで「火力」を選択し、「低▼時」「高▲分」ボタンで希望の火力に合わせてください。

消　火

- 再度、「運転入／切」ボタンを押してください。（運転ランプが点滅し、消火検知後、自動停止します。）

時刻設定

- 「表示切替」ボタンで「時計」を選択し、「低▼時」「高▲分」ボタンで希望の時刻を合わせてください。

タイマー運転

- 「おはようタイマー」ボタンを押してください。（おはようタイマー運転ランプが点滅します。）
- 「低▼時」「高▲分」ボタンを押して希望の時刻に設定してください。
- 再度、「おはようタイマー」ボタンを押してください。（おはようタイマー運転ランプが点灯し、設定時刻に自動点火します。）

点検と掃除

⚠警告 給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検してください。（排気ガスが室内に洩れて危険です。）

⚠警告 給排気筒トップ周りが雪でふさがれていないか確認してください。（排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因となります。）

⚠注意 灰の掃除は、必ず運転を停止してから行ってください。（火傷のおそれがあります。）

- 灰受の掃除は強燃焼（P4）で10時間、弱燃焼（P1）で40時間を目安に行ってください。
- 2シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。

ご注意

⚠警告 スプレー缶をストーブ周囲に放置しないでください。（爆発の原因になります。）

⚠警告 ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスを発生するもの、スプレーを使用しないでください。（火災や故障の原因になります。）

⚠警告 衣類などの乾燥には使用しないでください。（衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。）

⚠警告 カーテンや燃えやすいもののそばで使用しないでください。（火災が発生するおそれがあります。）

⚠注意 運転中や消火直後は、高温部、給排気筒には手などを触れないでください。（火傷のおそれがあります。）

⚠危険 ガソリンや揮発性の高いものを周辺に置かないでください。（火災の原因になります。）

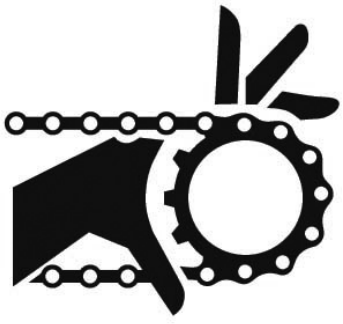
190883-910200

⚠ 警　告

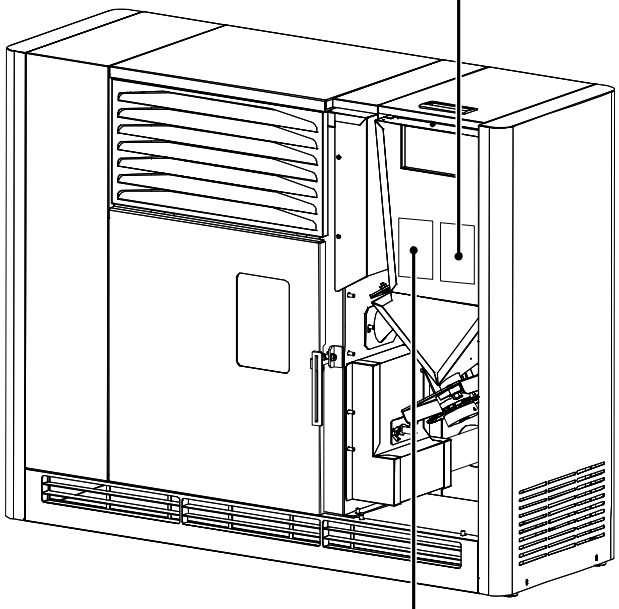


感電の恐れあり
主電源を切れ

⚠ 注　意



回転物に巻き込まれ
重傷の恐れあり



1.4 安全装置について

このストーブには次の安全装置がついています。すべての安全装置は異常が取り除かれても、再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

■対震自動消火装置（感震器）

原　　因	処置方法
地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。	☞52ページ

■過熱防止装置

原　　因	処置方法
異常過熱を検出した場合は、強制的に即消火動作に入ります。 温風空気取込口や温風吹出口がほこりなどでふさがれたり、ストーブ前面に障害物があるなどして、本体内部が過熱すると自動的に消火します。	☞52ページ

■点火安全装置／燃焼制御装置

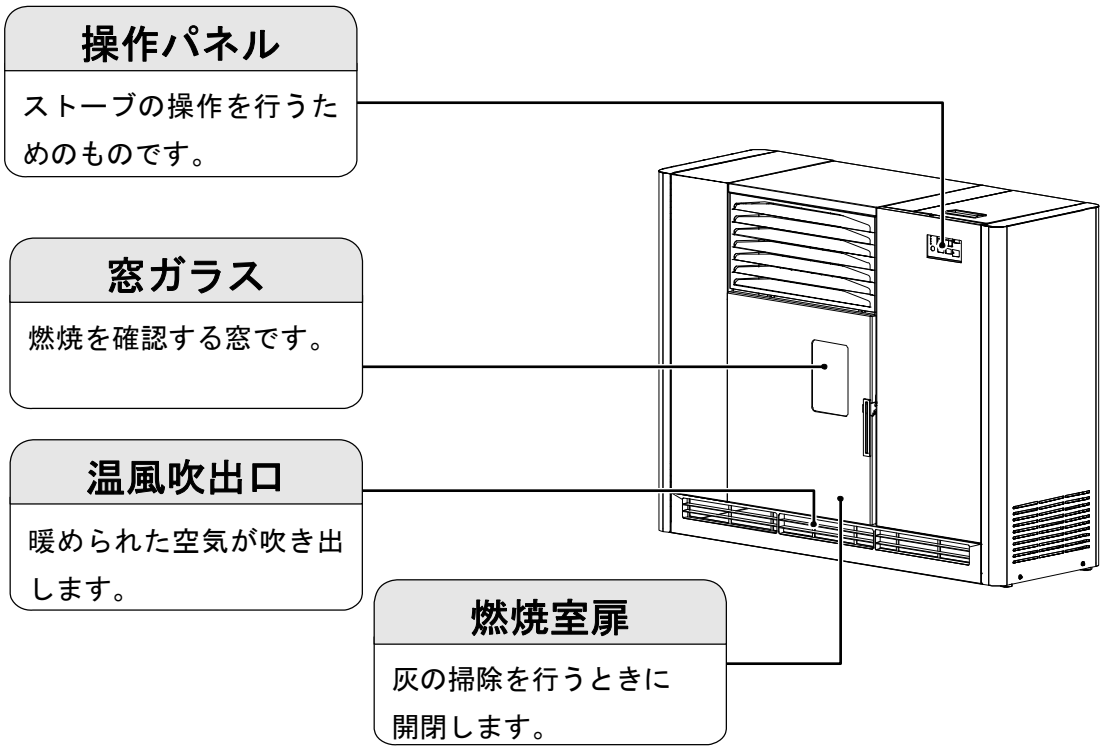
原　　因	処置方法
点火失敗、途中消火・燃料切れしたときに自動的に消火します。	☞53～54ページ

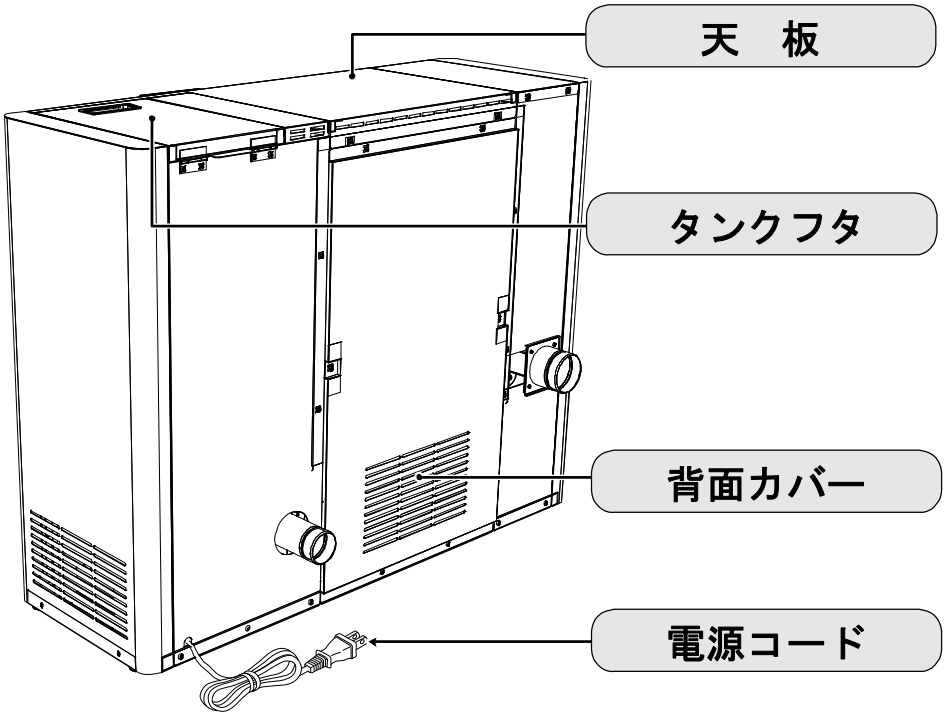
■逆火検知装置

原　　因	処置方法
タンクが高温になったときに強制的に即消火動作に入ります。	☞53ページ

2　各部の名称とはたらき

2.1 外観図





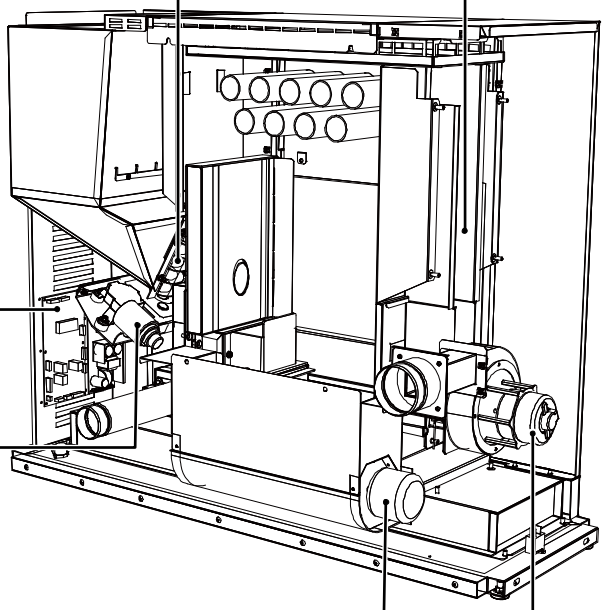
2.2 構造図

燃料搬送スクリュー

ホッパ内の燃料（木質ペレット）を送り出すためのものです。

バッフル

燃焼ガスの抜けを調整しているところです。



制御基板

燃料送りモータ

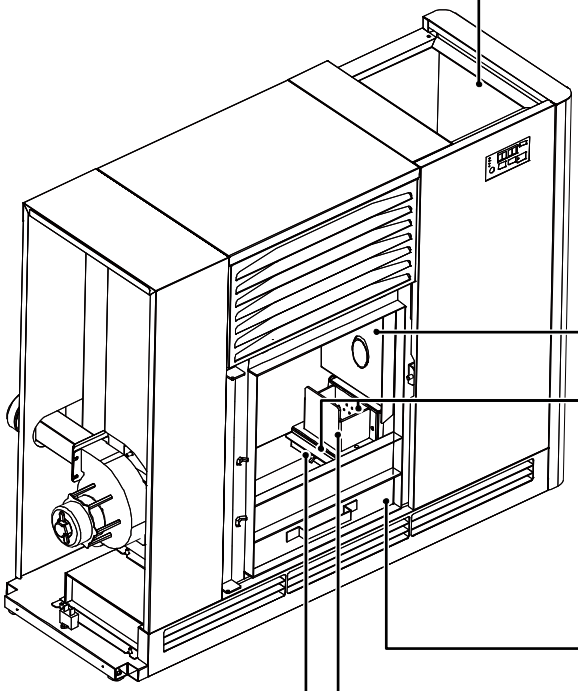
燃料搬送スクリューを動かすためのモータです。

暖房ファン

熱交換された暖かい空気を室内に送り出すためのファンです。

排気ファン

排気ガスを排気筒に送り出すためのファンです。



タンク

燃料（木質ペレット）をためておくところです。

燃焼板

ロストル

燃料（木質ペレット）を燃焼させるところです。

灰受

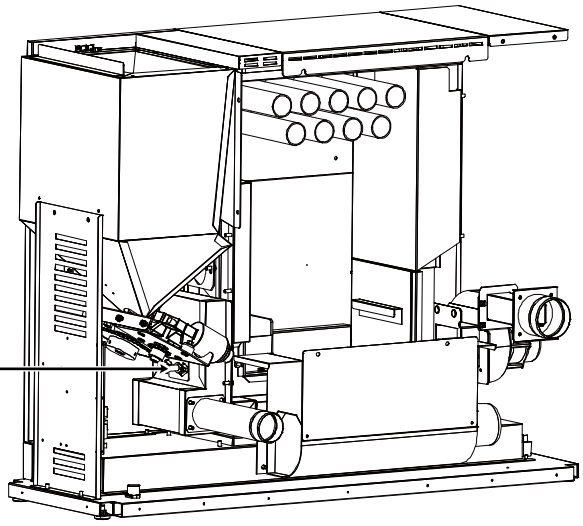
灰がたまるところです。

ロストル囲い

取り外すことでロストルの上にたまった灰を落とせます。

ロストル台底蓋

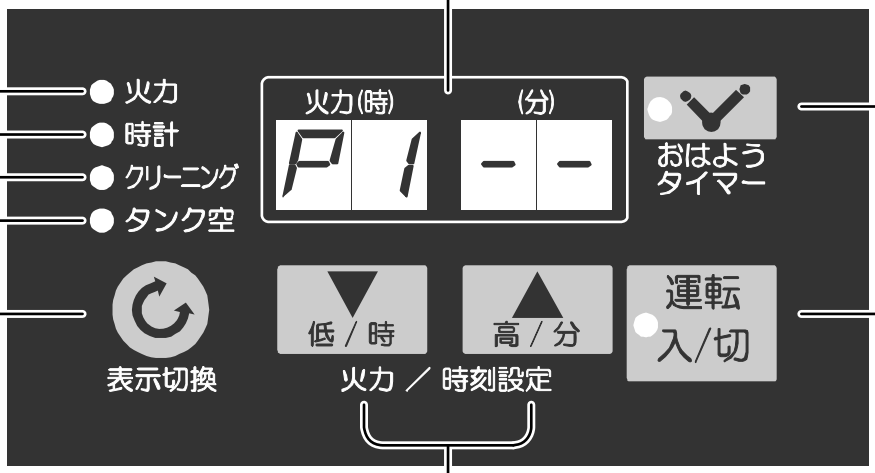
引き出すことでロストルの下にたまった灰を落とせます。



点火ヒータ

燃料（木質ペレット）を点火させるためのものです。

2.3 操作パネル



表示ランプ

表示部の表示内容に応じて、このランプが点灯します。

表示部

火力、時刻、タイマー設定時刻、エラーコードを表示します。

おはようタイマーボタン（おはようタイマーランプ付き）

タイマー運転を行うときに押します。
（このランプが点灯します。）(☞ 24～25ページ)

表示切換ボタン

表示を切り換えるときに押します。
ボタンを押すたびに、「火力」、「時計」、「クリーニング」、「運転時間」の順で表示が切り換ります。

火力調整、時刻設定ボタン

表示が「火力」のときに、火力を調整する場合に押します。

高 / 分	火力を上げる
低 / 時	火力を下げる

表示が「時計」のときに、時計を設定する場合に押します。

高 / 分	分を設定する
低 / 時	時を設定する

(☞ 22～23ページ)

運転ボタン（運転ランプ付き）

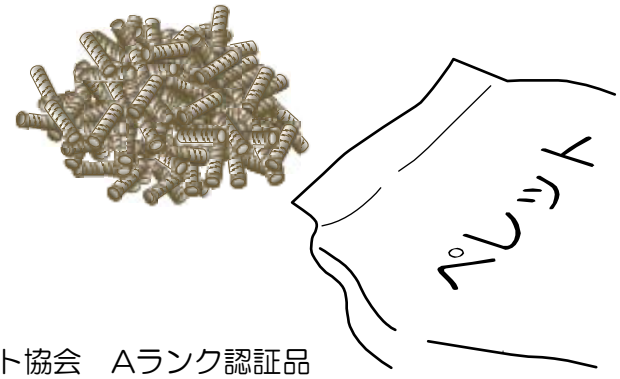
運転（入）および停止（切）するときに押します。
（このランプは、運転時に点灯します。）
(☞ 20～21ページ)

3　使用前の準備と確認

3.1　燃料の準備

■使用できるペレット

種　類	木質ペレット ・木部ペレット（WHT） ・混合ペレット（TRE）
直　径	6 mm、7 mm
長　さ	25 mm以下



- 推奨ペレット：一般社団法人 日本木質ペレット協会　Aランク認証品

■使用できないペレット

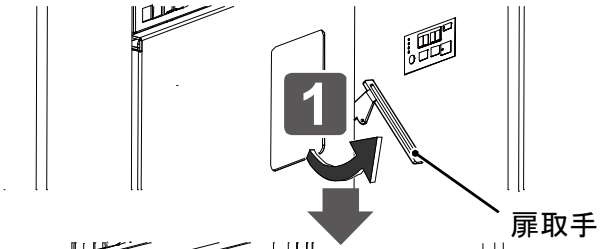
- 8 mmなどの太いもの。（使用すると燃料搬送スクリューに詰まる場合があります。）
- 木質系以外の成分が混入（建築廃材など）しているもの。

■使用できるが注意が必要なペレット

- 保管している木質ペレット燃料が湿気を持つことがあります。湿気を持った木質ペレット燃料を使用すると、燃料供給スクリューが詰まったり、点火しにくくなったり、窓ガラス（耐熱ガラス）内面がくもりやすくなります。

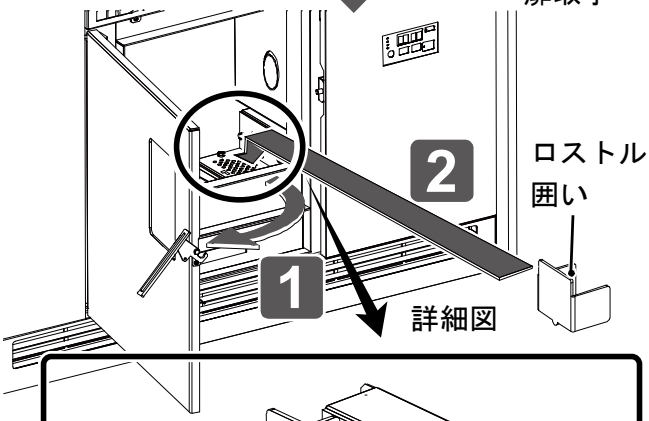
3.2 ロストル囲いの取り付け

1 **扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**



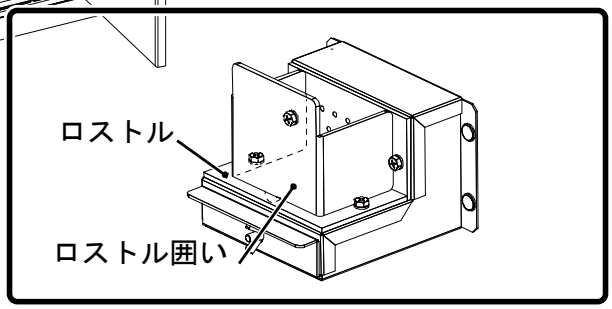
2 **ロストル囲いを取り付けます。**

- ロストル囲いの突起がロストルの溝に入るように取り付けてください。

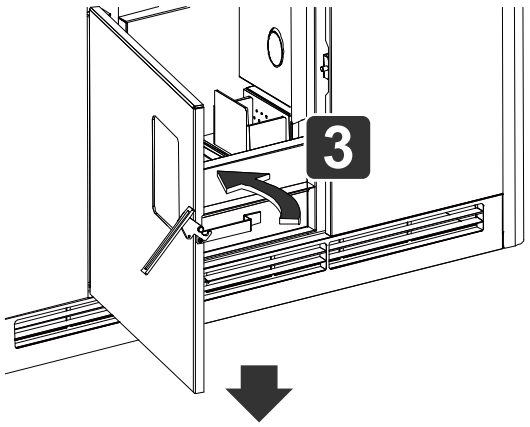


！ お願い

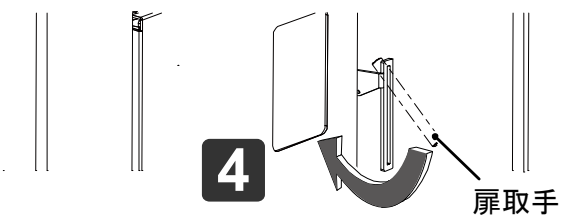
- ロストル囲いを取り付けるときは、図の位置に確実に取り付けてください。
- ロストル囲いが正しい位置にないとペレットが灰受けにこぼれたり、燃焼不良の原因となることがあります。



3 **燃焼室扉を閉じます。**



4 **扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。**



3.3 燃料の補給

⚠ 警告

運転中は、タンクフタを完全に閉める。

※ 異常燃焼や火災の原因になります。

⚠ 注意

木質ペレット燃料以外の物をタンクに投入しない。

※ 故障の原因になります。

床にこぼれたペレットは拾って使用する。

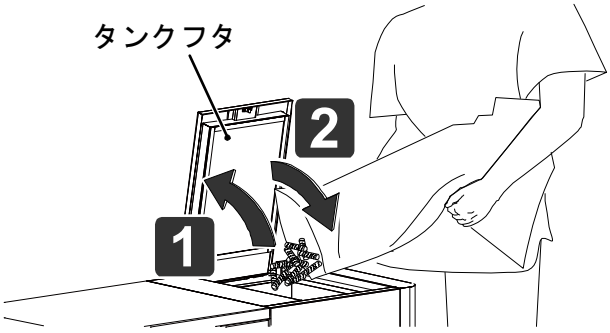
※ こぼれたペレットを踏むと、転倒するおそれがあります。

燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。

※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

1 タンクフタを開けて木質ペレット燃料を補給します。

- 補給する量は、タンクフタが完全に閉まる程度にしてください。

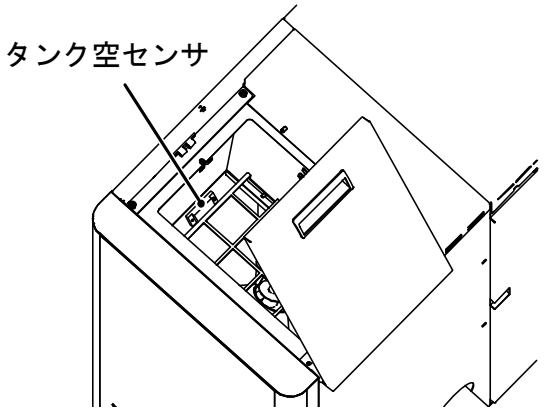


2 燃料補給が終わったら、必ずタンクフタを閉めます。

- こぼれた木質ペレット燃料はきれいに取り除いてください。

！ お願い

- タンク空センサの部分までペレットが減るとブザー音と「タンク空」LEDの点滅でお知らせします。
  燃料を補給してください。
  そのまま使用を続けると、自動で消火します。



3.4 周囲の確認

⚠ 警告

灰受には紙・布などは入れない。

※ 使用前に必ず点検してください。
発熱、発火の原因になります。

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しない。

※ 火災が発生するおそれがあります。

ストーブの周囲は常に整理・整頓し、ほこりなどがたまらないように清掃する。

※ 守らないと、火災の原因になります。

給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。

※ 排気ガスが室内に洩れて危険です。

給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか確認する。

※ 排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因となります。

⚠ 注意

ストーブの上にやかんなどをのせない。

※ 振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどや感電、故障の原因になります。

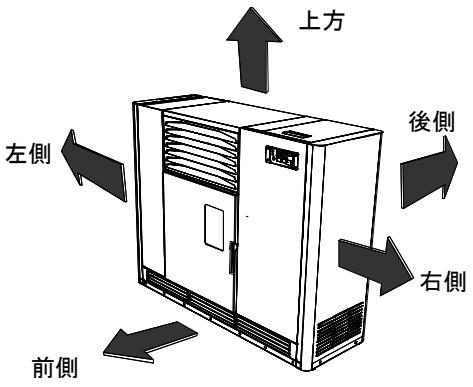
ストーブの上にのったり、物を置かない。

※ 本体の上にのらないでください。
天板がへこんだり、やけどのおそれがあります。

1 ストーブおよびストーブ周囲に可燃物や障害物がないことを確認します。

！ お願い

- 可燃物との離隔距離は消防法、各市区町村の火災予防条例に従ってください。

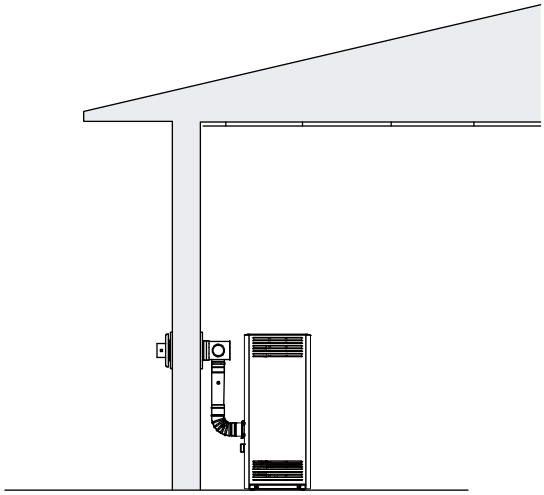


2 給排気筒の接続部を確認します。

⚠ 警告

給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。

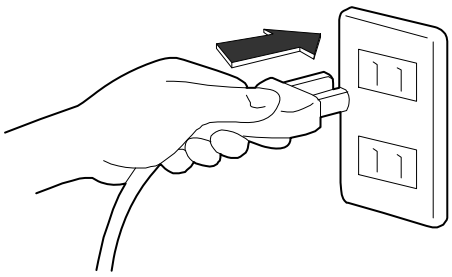
※ 排気ガスが室内に洩れて、事故の原因になります。



3 電源プラグをコンセントに差し込みます。

➡ 表示が「P1--」になります。

- 電源は家庭用100Vです。
  必ず専用コンセントを使用してください。
- 電源コードがストーブの下敷きになったり、給排気筒など高温部にふれていないか確認してください。



4　使いかた

⚠ 警告

燃焼中や消火直後は、高温部（燃焼室扉、窓ガラス、温風吹出口）、給排気筒に手などふれない。

※ やけどをするおそれがあります。
　小さいお子様のいるご家庭では市販のガードを設置してください。

寝るときや外出するときは、運転を停止（消火）する。

※ 守らないと、事故が発生するおそれがあります。

運転中は燃焼室扉を開けない。

※ やけど・けが・爆発燃焼のおそれがあります。

⚠ 注意

初めて使用するとき注意する。

※ ご購入後初めて使用されるときは、防錆油や塗装が焼けるため、煙やにおいが出ることがあります。窓を開けて部屋の換気をしてください。

4.1　点火のしかた

⚠ 注意

点火動作中に電源プラグを抜かない。

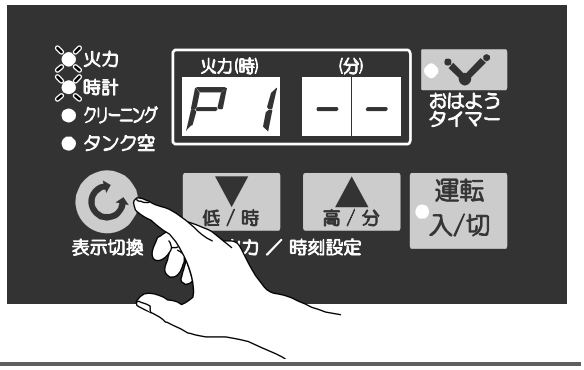
※ 電源プラグを抜く前に(点火用に)送り出された燃料がロストル上に残っているため、正常な点火動作ができず、事故が発生するおそれがあります。

点火失敗と失火後の再点火で、ロストルにペレットが残っている場合は、ロストルのペレットを取り除く。

※ ペレットが残っていると、点火時のペレット量が多くなり、爆発燃焼のおそれがあります。

1 を押して、表示を「火力」または「時計」に切り換えます。

➡ 「火力」ランプ、または「時計」ランプが点灯します。



! お願い

- 点火する前にロストルの掃除をしてください。（☞32ページ）
- 初めて使用するときや、失火エラー(E10)のあと、再運転するときは、燃料供給部にペレットを充填するため、クリーニング機能(1)を使ってペレットがロストルに落ちてくることを確認してから運転を開始してください。
  （☞26ページ）

2 運転 入/切 を押します。

➡ 「運転」ランプが点灯し、点火動作に入ります。火力の横に「.」が表示されます。

➡ 点火ヒータが作動し、5分程度で点火します。



お知らせ

- 運転 入/切 を押したときに、ブザー音が鳴ります。（各スイッチ操作時にすべてブザー音が鳴ります。）
- 火力の横に「.」が表示されている間は暖機運転を行っています。「.」が消灯すると、設定された火力での運転に移行します。
- 点火時間は、ペレットの性質によって変動します。
- 点火動作中に、再度「運転」ボタンを押すと、運転開始10秒未満であれば即停止します。10秒以上(点火用の燃料が供給されたあと)の場合は、点火動作終了後に消火動作に入ります。

4.2 消火のしかた

⚠ 警告

長期間使用しないときは電源プラグを抜く。

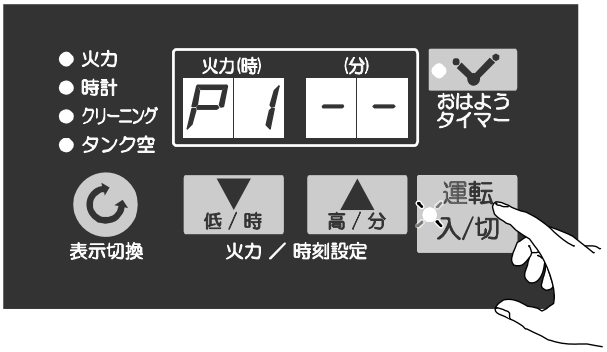
※ 守らないと、火災や事故の原因になります。

⚠ 注意

電源プラグを抜いて消火しない。

※ 消火後、送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。
天板などが高温になり、やけどや故障の原因となります。

1 運転 入/切 **を押します。**



➡ ブザー音が鳴り、消火動作に入ります。

➡ 「運転」ランプが点滅します。

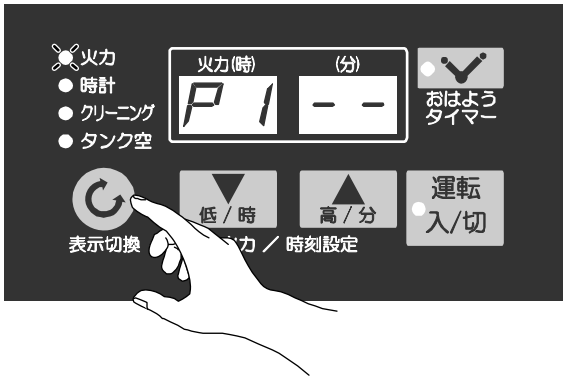
缶体の温度が規定値以下になると（約30分後）

➡ 排気ファン、暖房ファンが停止し、「運転」ランプが消灯します。

4.3 火力の変更のしかた

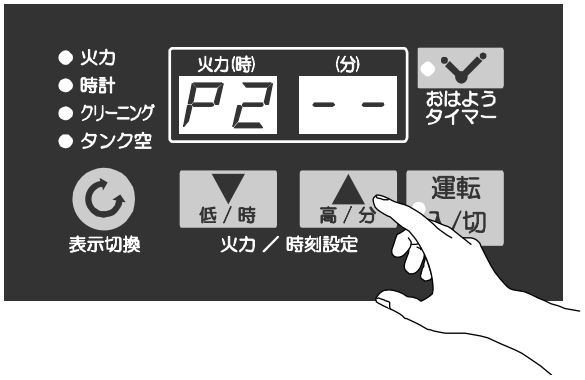
1 **を押して、表示を「火力」に切り換えます。**

➡ 「火力」ランプが点灯します。



2 **高 / 分 または 低 / 時 を押すと火力が変更できます。**

➡ 変更後の火力が表示されます。

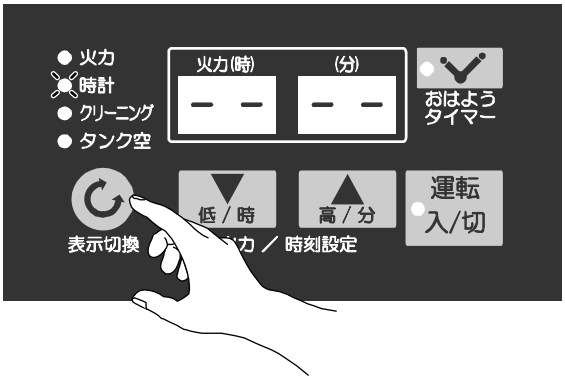


お知らせ

- 火力調節は「P1」から「P4」の4段階の調節が行えます。
- 停止中、通常運転中に火力を設定することができます。

4.4 時刻合わせのしかた

1 **を押して、表示を「時計」に切り換えます。**

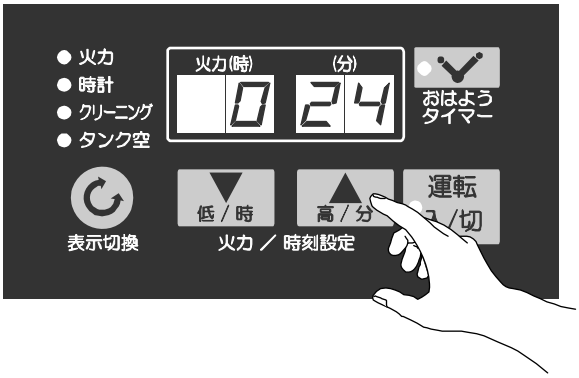


➡ 「時計」ランプが点灯します。

➡ 時計が未設定の場合は、「-- --」表示になります。

● 停止中でも運転中でも合わせることができます。

2 **高 / 分 または 低 / 時 を押して時計を合わせます。**



● ボタンを押し続けると早送りになります。

お知らせ

● 時計を合わせていないとタイマー運転が行えません。

● 停電などで電源が遮断された場合は、再度時計合わせが必要になります。

4.5 タイマー運転のしかた

設定時刻になると、自動的にストーブの運転を開始します。

！ お願い

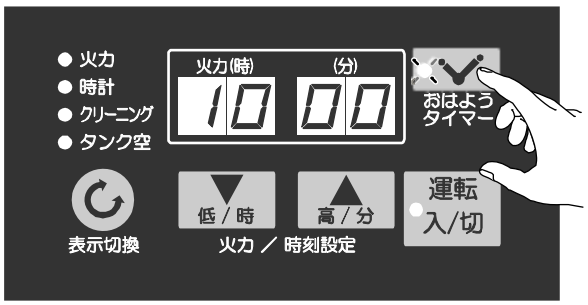
- タイマー運転をするときは、設定前に必ずロストルに灰がたまっていないことを確認してください。灰がたまったままだと、点火失敗の原因となります。

お知らせ

- 運転を開始後、ボタン操作が2時間以上ないときは自動的に消火動作に入ります。
- 時刻合わせをしないとタイマー運転ができません。タイマー運転の設定をする前に時刻を合わせてください。（☞「4.4　時刻合わせのしかた」）

1 **を押します。**

➡ 「おはようタイマー」ランプが点滅し、タイマー時刻を表示します。

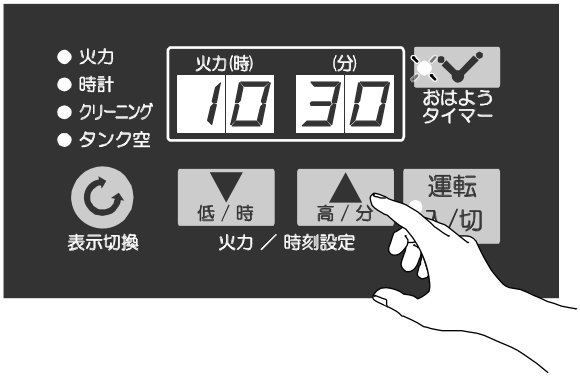


お知らせ

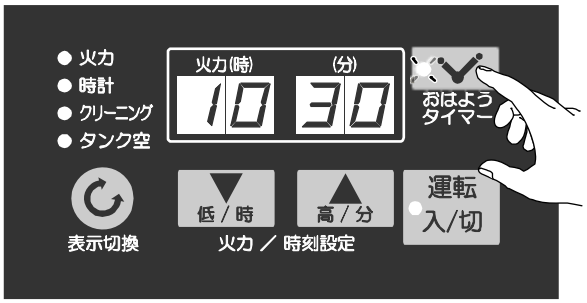
- 各スイッチ操作時にブザー音が鳴ります。

2 **高 / 分 または 低 / 時 で希望する設定時刻に変更します。**

- ボタンを押し続けると早送りになります。
- 10秒間操作がない場合、または「表示切換」ボタンを押すと、「おはようタイマー」ランプが消灯し、タイマー運転を停止します。



3 「おはようタイマー」ランプが点滅中に を再度押します。



➡ 「おはようタイマー」ランプが点灯し、タイマー運転を開始します。

➡ 設定時刻に達すると運転を開始し、通常運転開始の場合と同じように点火動作に入ります。

■タイマー設定について

お知らせ

- タイマー運転は停止状態および消火動作中のときのみ設定できます。
- 火力は、「火力」表示で設定ができます。
  （☞「4.3 火力の変更のしかた」）
- 火力設定後、10秒間操作がない場合は、タイマー設定時刻表示に切り換わります。
- タイマー運転中に「運転」ボタンを押すと、タイマー運転を停止し、点火動作に入ります。
- タイマー運転中に再度 を押すと、タイマー運転を停止します。
- 消火動作中に設定時刻になった場合は運転を開始しません。
- タイマー設定時刻から2時間、一度もボタン操作がなかった場合は、安全のため、自動で消火動作に入ります。

4.6 クリーニング機能(１)

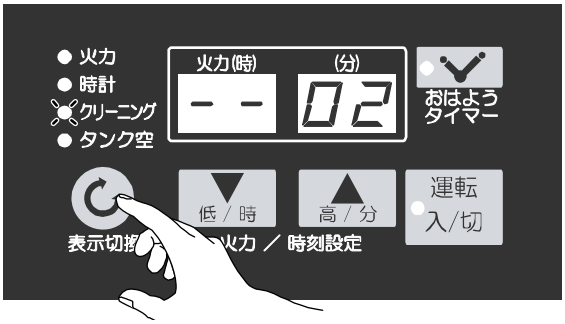
タンク内のペレットを強制的に排出したいときに使用します。

！ お願い

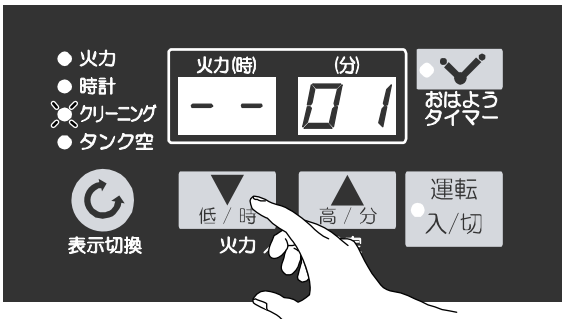
- クリーニングは、燃焼室の掃除を行い、灰受皿の燃焼灰を捨ててから行ってください。
- タンクから取り除けるペレットは、スコップなどでクリーニング前にできるだけ取り除いてください。

1 **を押して、表示を「クリーニング」に切り換えます。**

➡ 「クリーニング」ランプが点灯し、「--02」を表示します。

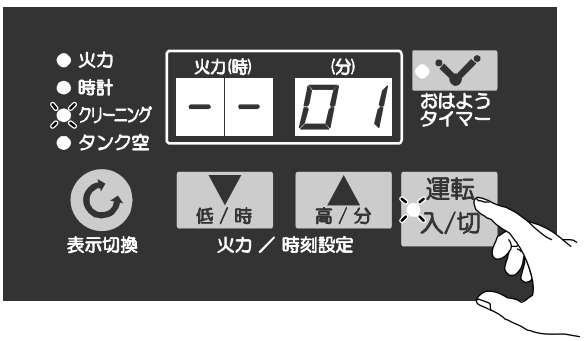


2 低 / 時 **を押して、表示を「-- 01」に切り換えます。**



3 運転 入/切 **を 5 秒間長押しします。**

➡ 「運転」ランプが点灯し、ペレットが燃焼室内へ排出されます。

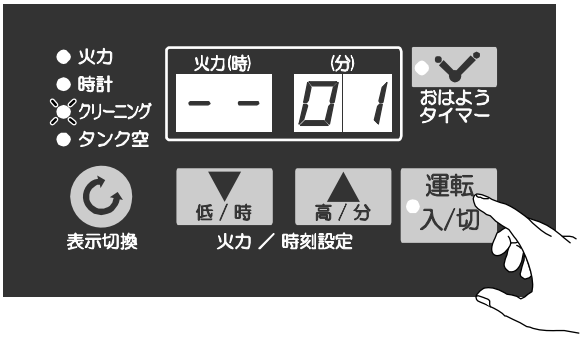


4 **ペレットの排出が終了したら、再度** 運転 入/切 **を押します。**

➡ 「運転」ランプが消灯し、ペレットの排出を停止します。

お知らせ

- クリーニングは、停止中にしか行えません。運転中は、「クリーニング」表示には切り換わりません。

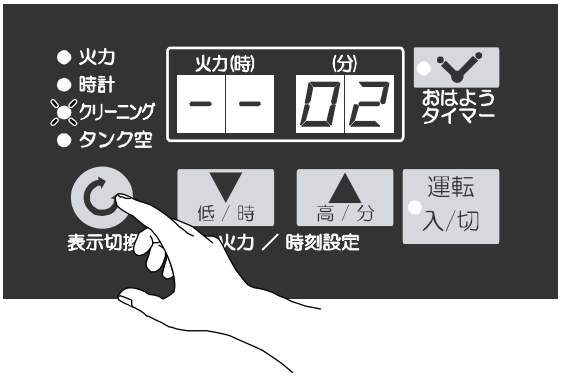


4.7 クリーニング機能(2)

ロストルの掃除など、燃焼室扉を開けるときに、燃焼室から飛散してくる灰を軽減します。

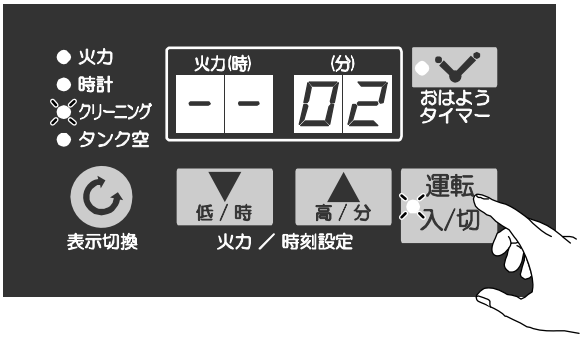
1 **を押して、表示を「クリーニング」に切り換えます。**

➡ 「クリーニング」ランプが点灯し、「--02」を表示します。



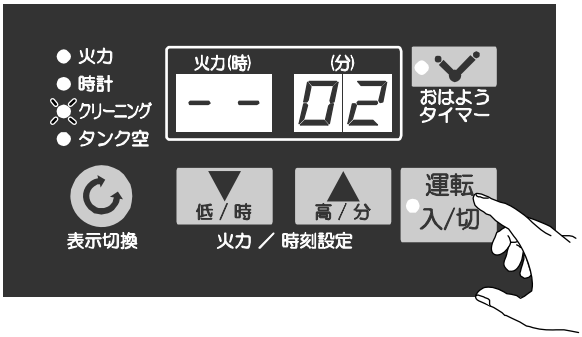
2 運転 入/切 **を押します。**

➡ 「運転」ランプが点灯し、排気ファンが駆動します。



3 **ロストルの掃除などが終了し、燃焼室扉を閉めたら、再度** 運転 入/切 **を押します。**

➡ 「運転」ランプが消灯し、排気ファンが停止します。



お知らせ

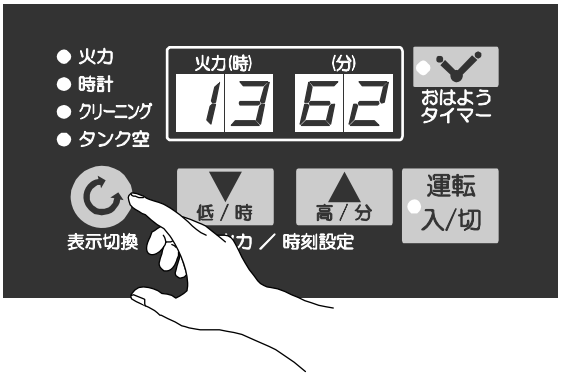
- クリーニングは、停止中にしか行えません。運転中は、「クリーニング」表示には切り換わりません。

4.8 運転時間確認機能

バッフルの掃除など、定期点検を行う際の目安として運転時間をご確認いただけます。

1 ** を押して、表示を「クリーニング」の次に切り換えます。**

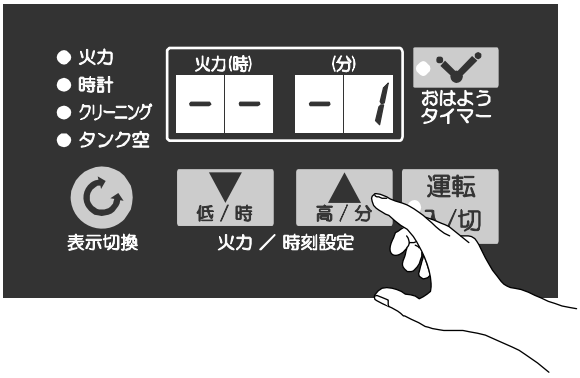
➡ ランプはいずれも消灯し表示部に運転時間を表示します。



2 **運転時間が 1 万時間を超えた場合**



を押して、1 万の位を表示します。



➡運転時間が1万時間未満の場合は



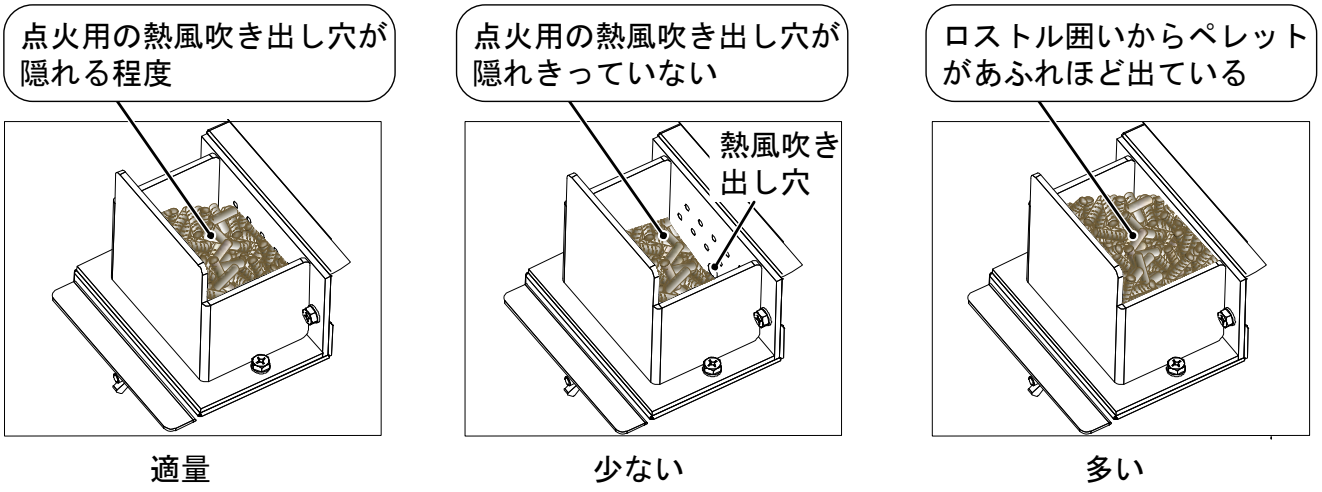
を押しても何も表示されません。

4.9 点火時のペレットの量の調整のしかた

ペレットの品質（長さなど）が変化し、点火時のペレットの量が適量でなくなった場合、お客さま自身で調整いただけます。

■ペレットの量について

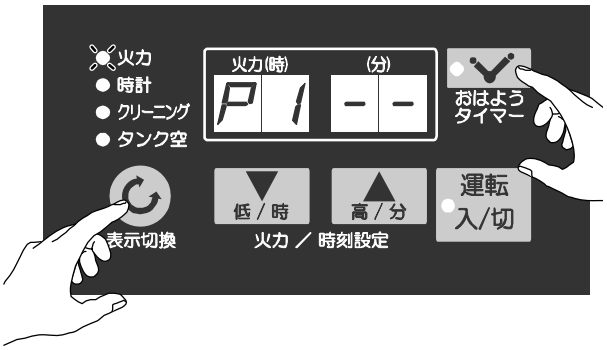
下図に示すとおり、ロストル上のペレットの量が適量かどうか確認してください。



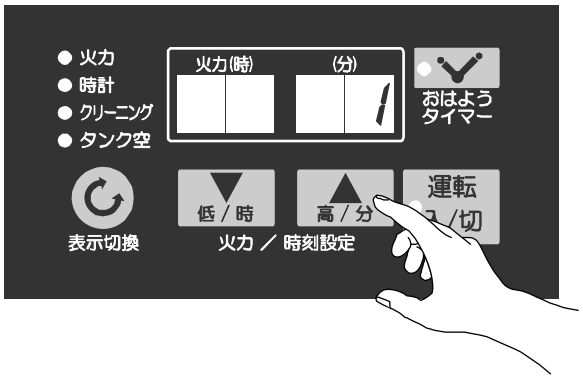
- 点火時のペレットの供給が終わった時点（運転開始から、およそ3～4分後）で確認してください。

■調整方法

1 **を押しながら、** **を「ピッ」と音がするまで押します。**



2 **点火時のペレットの量を増やしたい場合は** 高 / 分 **を、減らしたい場合は** 低 / 時 **を押して調整します。**



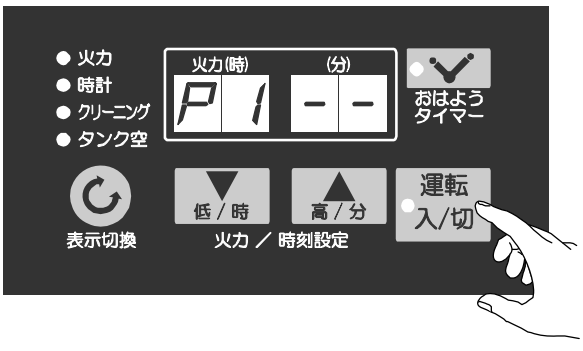
お知らせ

- 調整範囲は下図のとおりです。

-3	-2	-1	0	1	2	3
← 減らす			初期設定		増やす →	

- 設定の変更は１ずつ変化させ、様子を見てください。

3 運転 入/切 **を「ピッ」と音がするまで押すと、調整が完了し、表示が元に戻ります。**



4 **次回点火時に調整された量のペレットが出ます。**

5　日常の点検・手入れ

5.1 定期点検表

点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具が必要なものが含まれています。
お客さま自身で実施できない点検内容についてはお買い求めの販売店へ依頼してください。

⚠ 注意

正常な機能を維持するために定期点検を行う。
※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

点検・手入れは、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。
※ やけど・けがの原因になります。

燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。
※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

点　検　内　容	点検時期			備　考	参照ページ
	点火前	1か月毎	必要に応じて		
ロストルの掃除	●				32
周囲の確認	●				17
灰受の掃除			●	強燃焼（P4）のとき、10時間 弱燃焼（P1）のとき、40時間	34
窓ガラスの手入れ			●	透明度が悪くなったら	36
クリンカの掃除			●	クリンカができてきたら	37
バッフルの掃除		●		1か月に1回程度（目安：500時間）	40
本体と温風吹出口の掃除		●		1か月に1回程度	43
給排気筒トップの掃除		●		1か月に1回程度	44
給排気筒の点検			●	シーズンの初め	46
販売店による定期点検			●	1シーズンに1回程度	46

5.2 ロストルの掃除

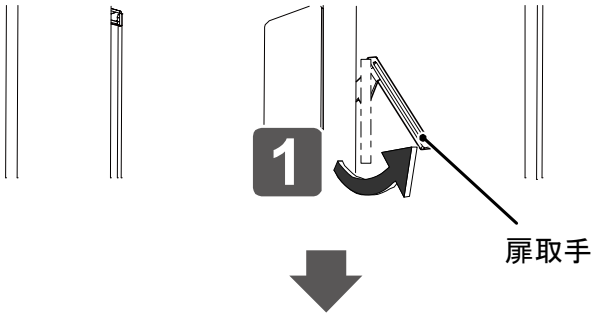
点火前
掃除

⚠ 注意

ロストルの掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。
※ やけど・けがの原因になります。

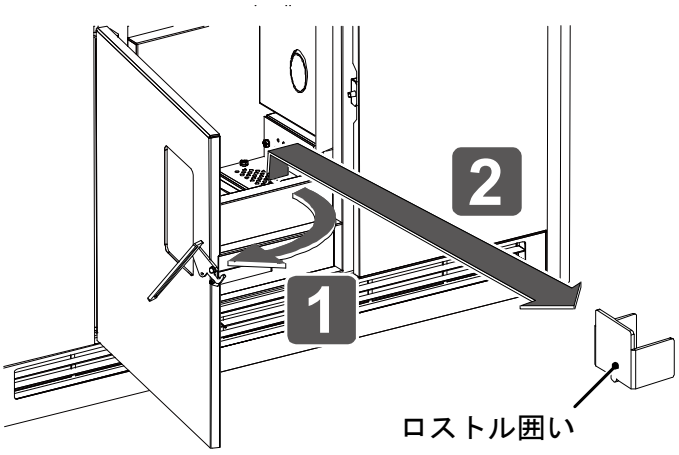
ロストルを取り外したときは、落とさないように注意する。
※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

1 **扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**

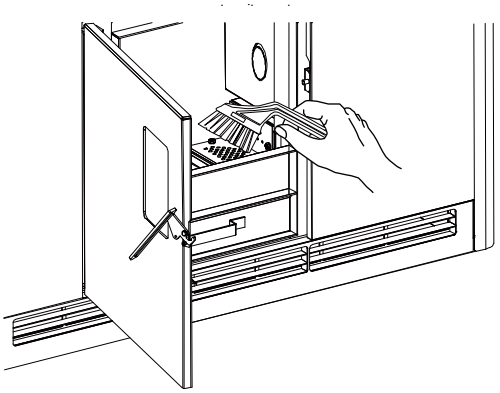


お知らせ
- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）

2 **ロストル囲いを取り外します。**



3 **付属品の掃除用ハケで灰を落とします。**
- ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。

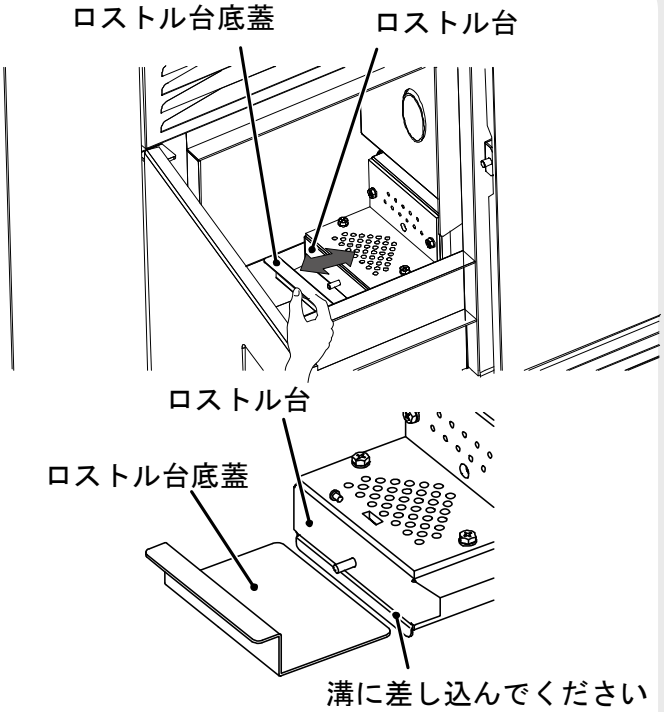


！ お願い
- 点火用の熱風吹き出し穴に灰を押し込まないでください。
灰が詰まると点火失敗の原因になります。

4 ロストル台底蓋を引き出して、ロストルの下にたまった灰を落とします。

！ お願い

- ロストルの下にたまった灰は定期的に落としてください。
  灰がたまると燃焼不良の原因になります。
- ロストル台底蓋はナットで固定されています。掃除する際はナットを外し、引き出してください。掃除後は、ロストル台の溝に差し込み、ナットで元通りしっかりと固定してください。

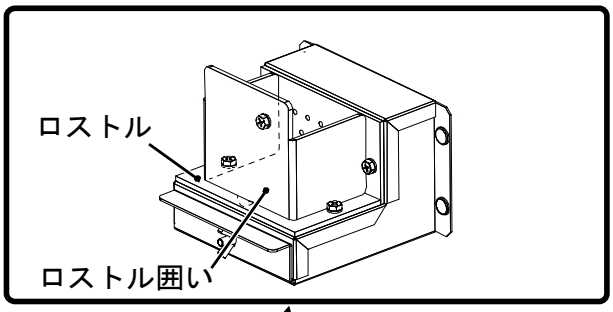


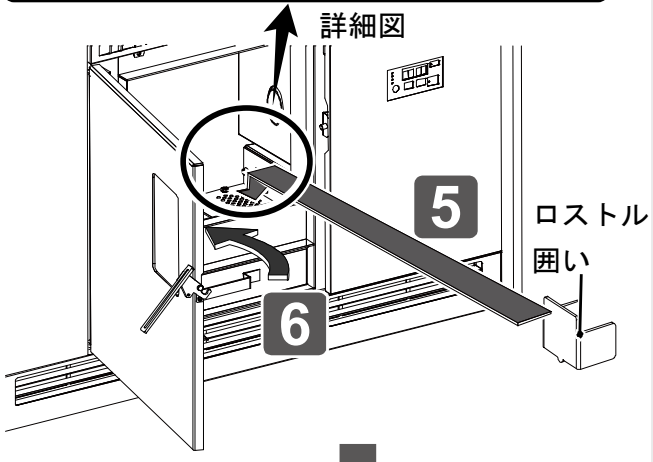
5 灰を落とし終えたら、ロストル囲いを取り付けます。

- ロストル囲いの突起がロストルの溝に入るように取り付けてください

！ お願い

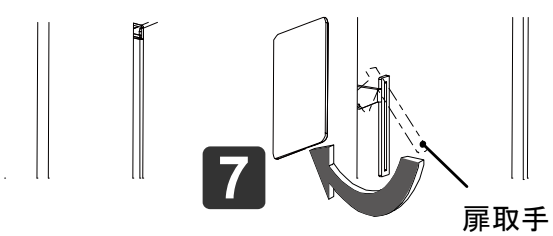
- ロストル囲いを取り付けるときは、図の位置に確実に取り付けてください。
- ロストル囲いが正しい位置にないとペレットが灰受けにこぼれたり、燃焼不良の原因となることがあります。





6 燃焼室扉を閉じます。

7 扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。



5.3 灰受の掃除

10~40時間
掃除

灰受は強燃焼（P4）で10時間、弱燃焼（P1）で40時間をめどに必ず灰を捨ててください。次の方法で確認、掃除をしてください。

⚠ 警告

灰受の灰を定期的に捨てる。

※ 灰受がいっぱいになったあとも使用を続けると、火災や事故の原因になります。

⚠ 注意

灰受の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。

※ やけど・けがの原因になります。

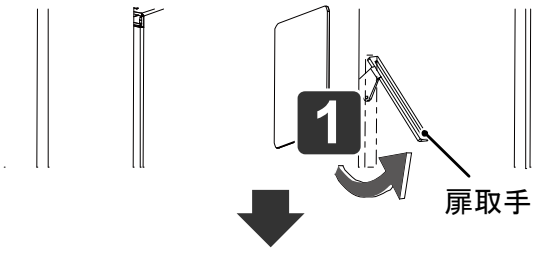
灰受に未燃ペレットがこぼれている場合は、灰受がいっぱいになっていなくても捨てる。また、熱い燃えカスや火気に充分注意して捨てる。

※ 灰受でペレットが燃えると、ストーブの故障、破損の原因になります。

必ず灰受を取り付けて使用する。

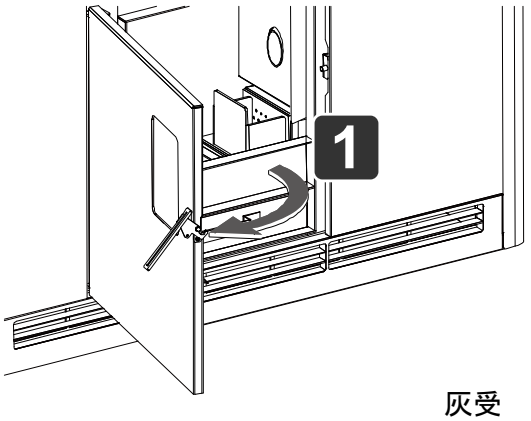
※ ストーブの故障、破損、事故の原因になります。

1 **本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**

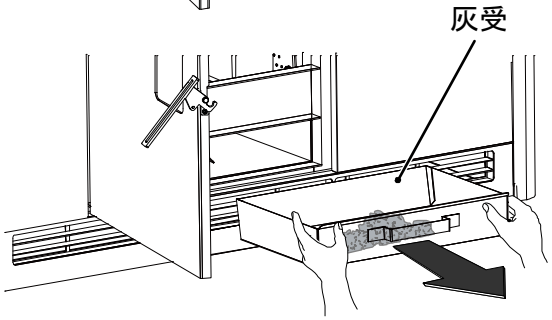


お知らせ

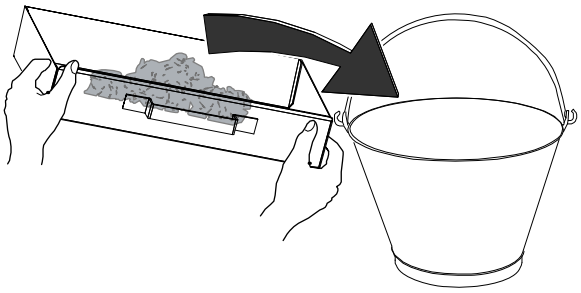
- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）



2 **灰受を手前に引き出します。**

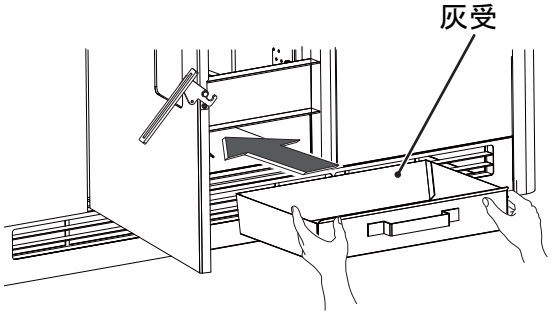


3 **灰受にたまった灰を捨てます。**

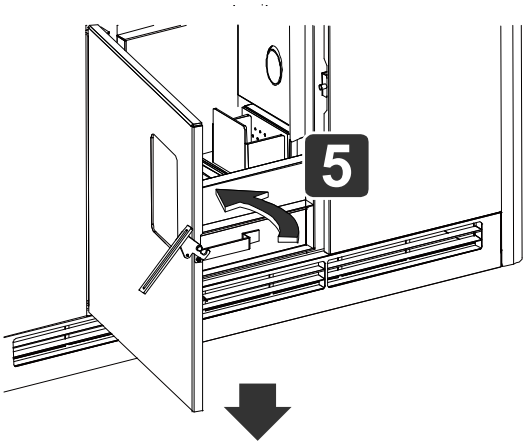


> **⚠ 警告**
>
> **灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。**
>
> ※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。

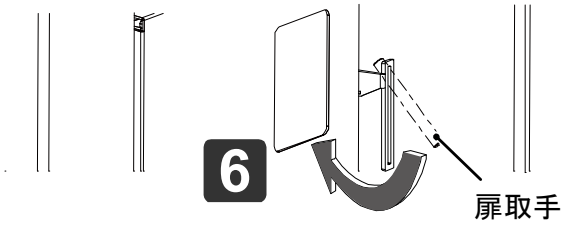
4 **灰受を取り付けます。**



5 **燃焼室扉を閉じます。**



6 **扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。**

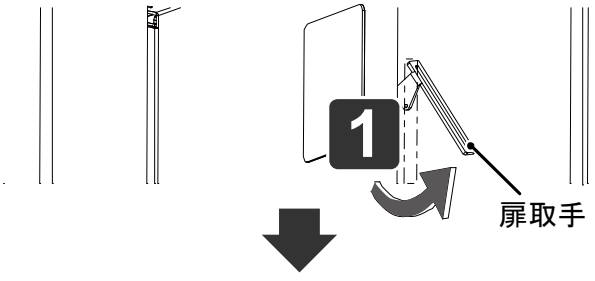


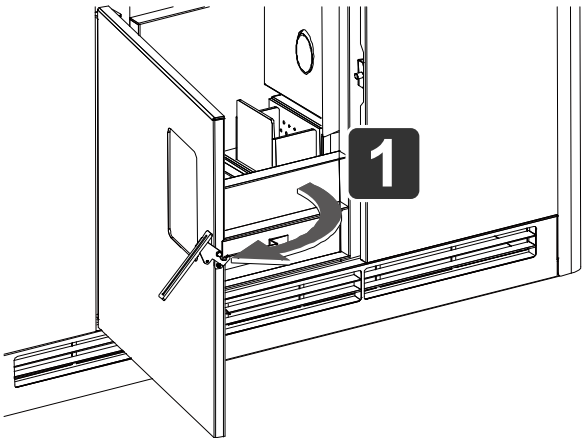
5.4 窓ガラスの手入れ

適宜
手入れ

窓ガラスの透明度が悪くなったときは、以下の手順で手入れを行ってください。

1 **本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**

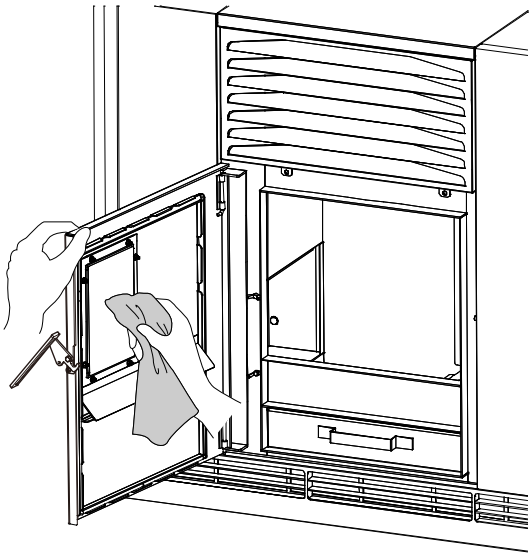




お知らせ

- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）

2 **内側より少し水を含ませた布などで窓ガラスをふきます。**



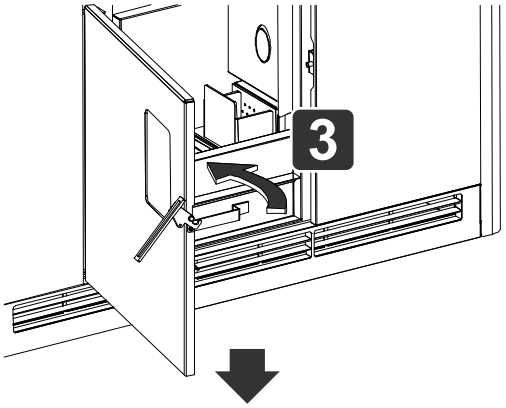
⚠ 注意

あまり強く押えすぎない。

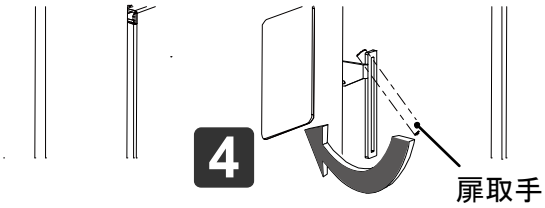
※ 窓ガラス（耐熱ガラス）が損傷したり、割れた耐熱ガラスでけがをする原因となります。

- 窓ガラスに損傷がある場合は、お買い求めの販売店へ交換を依頼してください。

3 **燃焼室扉を閉じます。**



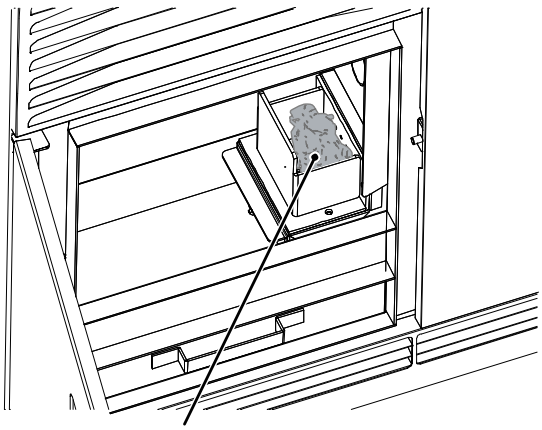
4 **扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。**



5.5 クリンカの掃除

適宜 掃除

- 燃料の種類によりクリンカ（灰が溶けて固まったもの）ができる場合があります。ロストルにクリンカができると、燃焼に必要な空気の送風がさまたげられ、燃焼不良の原因となります。
- クリンカのできる時間は、木質ペレットの性質、燃焼量によっても異なりますが約3～5時間位のものもあります。火力が大きいほど発生しやすくなります。



■掃除手順

⚠ 注意

運転中に確認してクリンカができていた場合は掃除を行う。

※ 運転を続けると完全燃焼しなくなり、煙が出たり、装置の故障の原因になります。

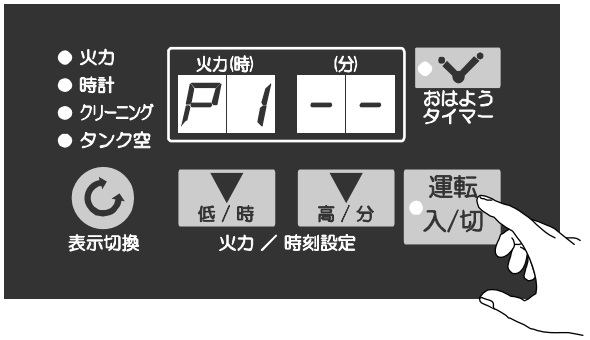
ロストル囲いを取り外したときは、落とさないように注意する。

※ 足などに落下した場合、けがの原因になります。

1 運転 入/切 **を押します。**

（☞「4.2　消火のしかた」）

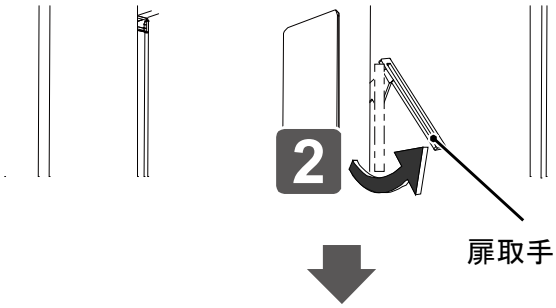
➡ 運転が停止します。



2 **本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**

お知らせ

● 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）

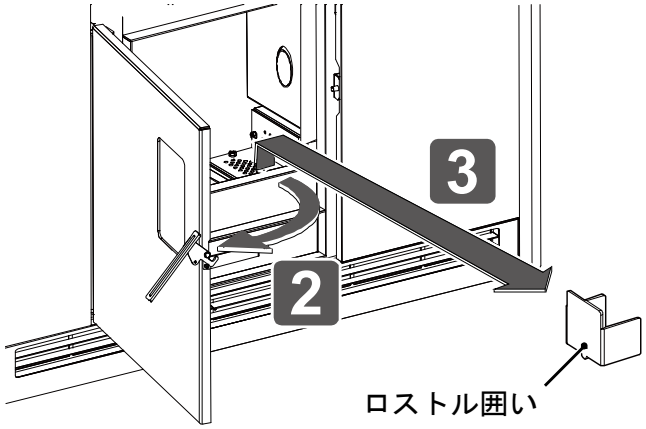


3 **ロストル囲いを取り外します。**

⚠ 警告

灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。

※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。

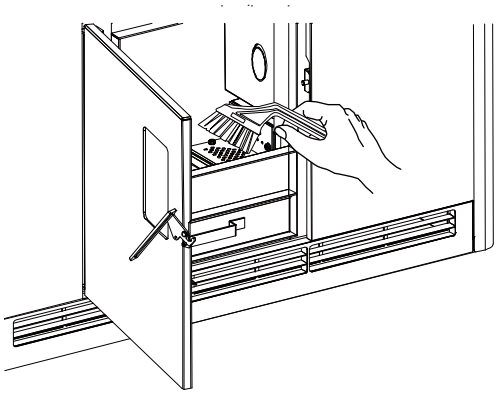


4 クリンカを付属品の掃除用ハケで灰受に落とします。

● ロストルの穴に詰まった灰も念入りに取り除いてください。

！ お願い

● 点火用の熱風吹き出し穴に灰を押し込まないでください。
灰が詰まると点火失敗の原因になります。



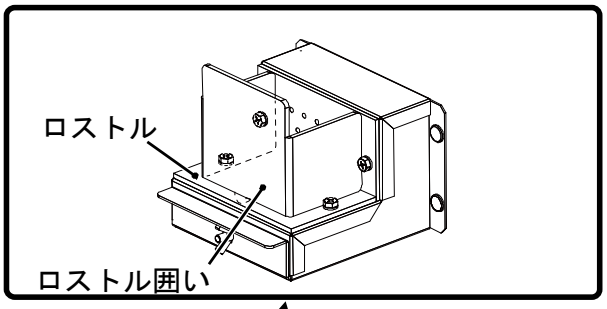
5 クリンカを落とし終えたら、ロストル囲いを取り付けます。

● ロストル囲いの突起がロストルの溝に入るように取り付けてください

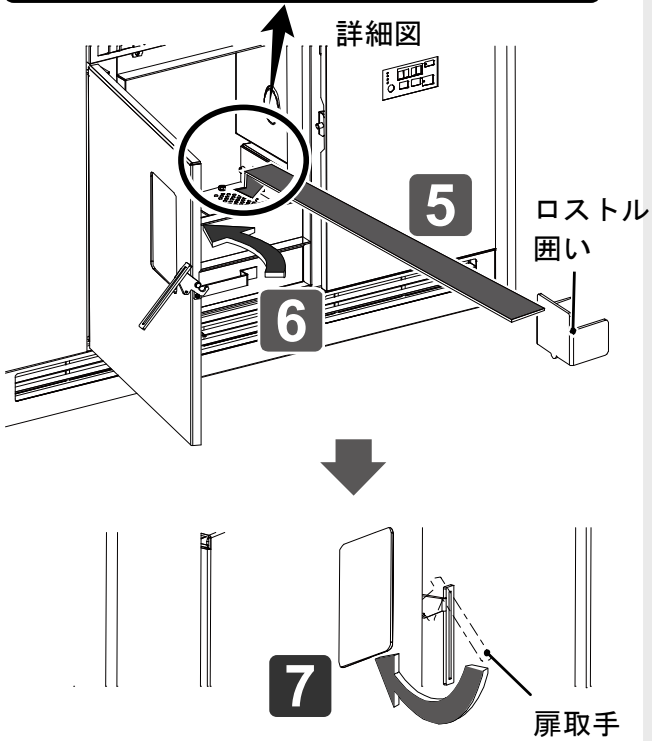
！ お願い

● ロストル囲いを取り付けるときは、図の位置に確実に取り付けてください。

● ロストル囲いが正しい位置にないとペレットが灰受けにこぼれたり、燃焼不良の原因となることがあります。



6 燃焼室扉を閉じます。



7 扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。

5.6 バッフルの掃除

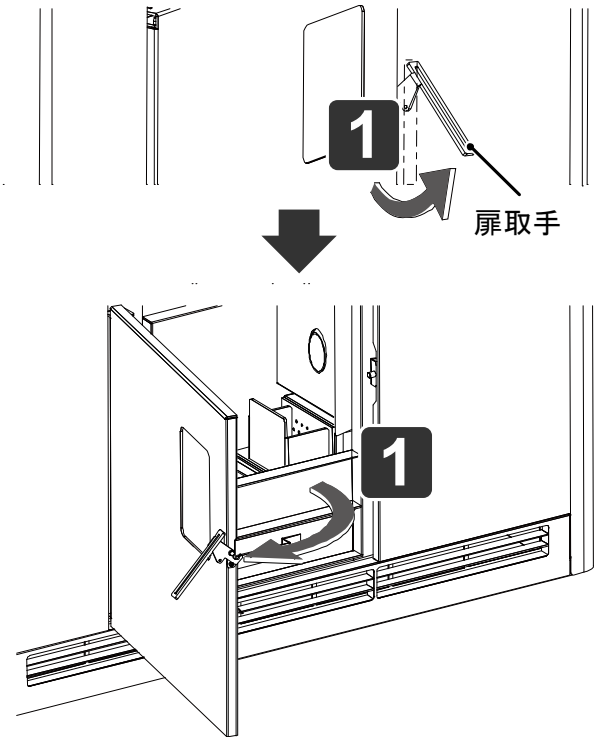
500 時間
掃除

⚠ 注意

バッフルの掃除は運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。
※ やけど・けがの原因になります。

バッフルの掃除は定期的に行う。
※ バッフルに灰がたまったまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。

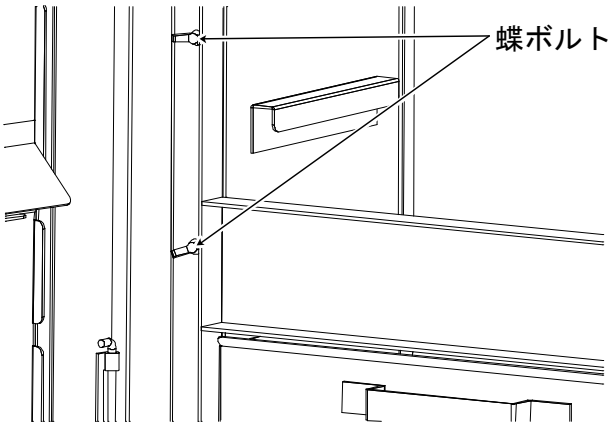
1 **本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**



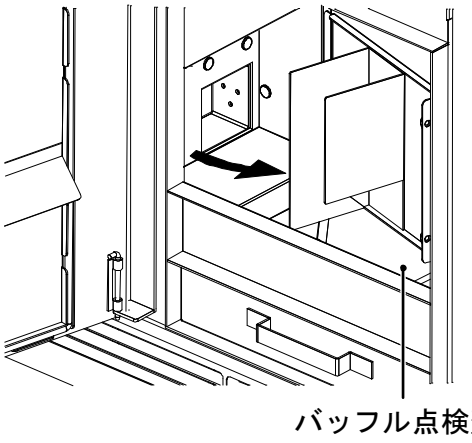
お知らせ

- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）

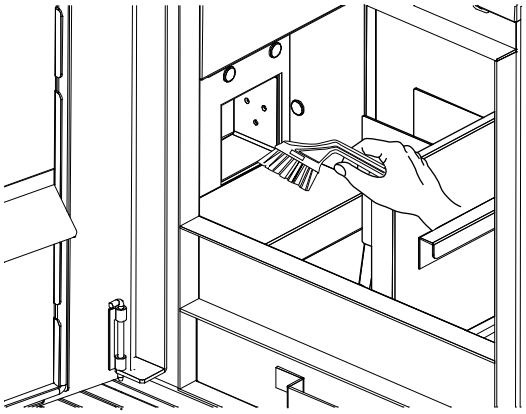
2 **バッフル点検蓋を固定している蝶ボルト 2 個を外します。**



3 バッフル点検蓋を取り外します。



4 たまった灰を掃除用ハケで灰受皿側に落とします。



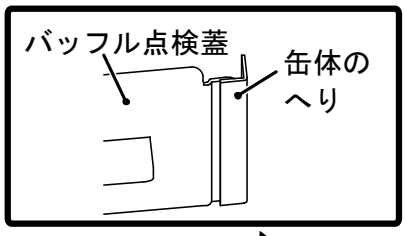
⚠ 警告

灰を取り出すとき、および灰を捨てるときは、熱い燃えカスや火気に注意する。

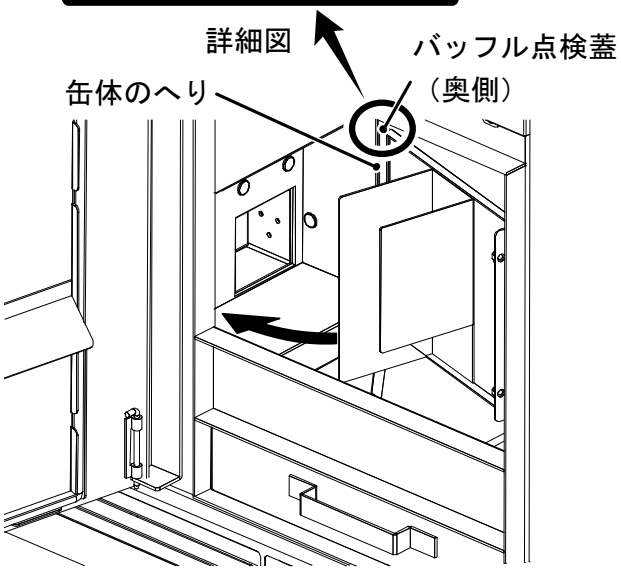
※ やけど・けがや火災のおそれがあります。必要に応じて手袋を使用してください。

5 バッフル点検蓋を取り付けます。

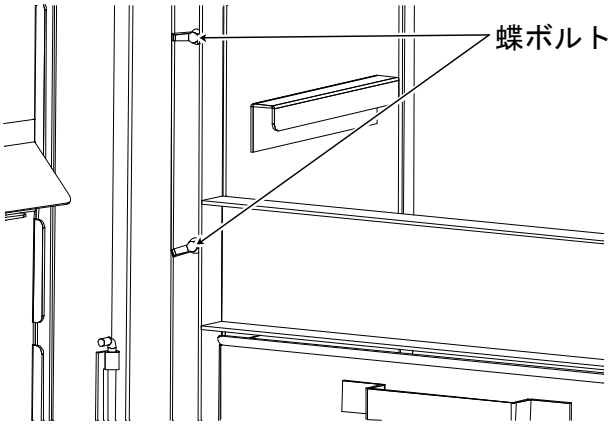
● バッフル点検蓋（奥側）を缶体のヘリ（内側）にひっかけるようにして取り付けます。



詳細図

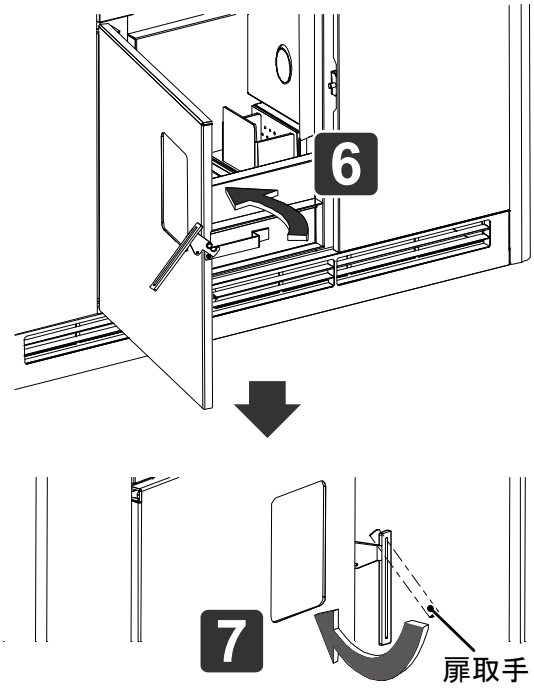


6 **手順 2 で取り外した蝶ボルト 2 個でしっかりと固定します。**



7 **燃焼室扉を閉じます。**

8 **扉取手を最後まで押し、燃焼室扉をしっかりと閉めます。**



5.7 本体と温風吹出口の掃除

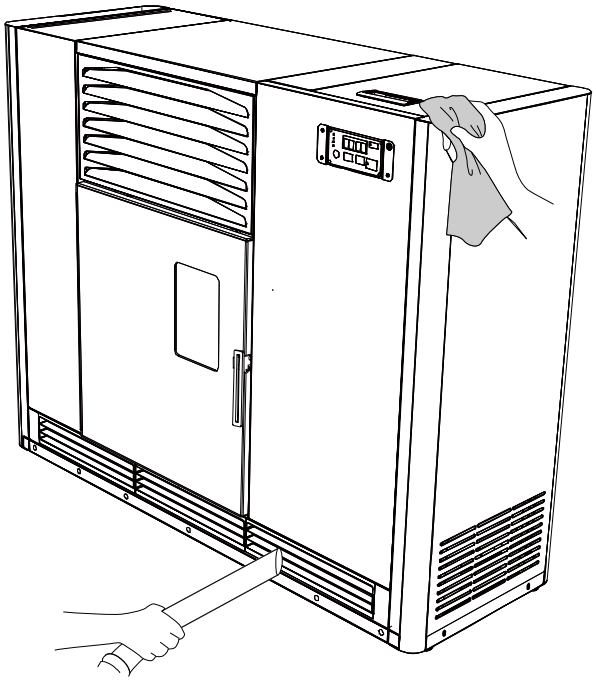
1か月に1回
掃除

⚠ 注意

本体をベンジン・シンナーなどでふかない。
※ 塗装の色があせたり、部品が変形する原因になります。

本体と温風吹出口の掃除は、運転を停止し、ストーブが充分冷えてから行う。
※ やけど・けがの原因になります。

1 **ほこりを掃除機で吸い取ります。**



2 **汚れは固く絞ったやわらかい布でふき取ります。**

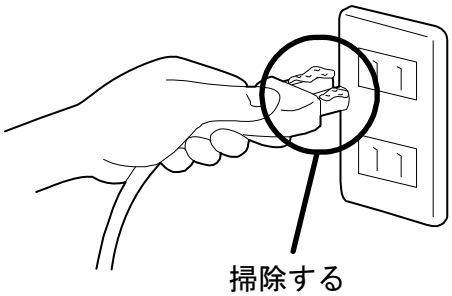
！ お願い

- 警告ラベルの汚れはきれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。（☞7ページ）
- 燃焼室扉や温風吹出口など遠赤黒塗装がされている部分は乾ふきのみにしてください。水ふきをすると塗装がはがれることがあります。

3 **電源プラグの先端部分にたまったほこりを掃除します。**

⚠ 警告

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去する。
※ ほこりなどがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。



5.8 給排気筒トップの点検

1か月に1回

掃除

⚠ 警告

給排気筒トップの近くに可燃物を置かない。

※ 火災の原因になります。当社が規定する可燃物との距離を確保してください。

⚠ 警告

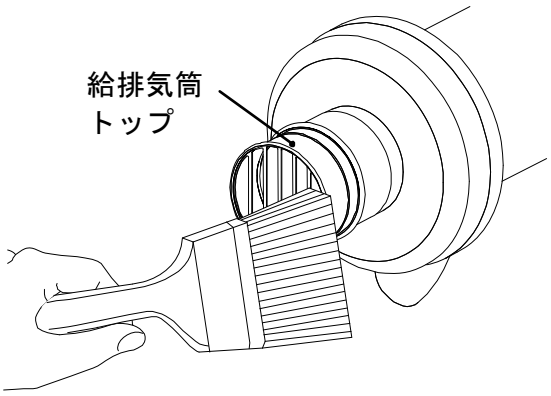
● **給排気筒トップの掃除は運転を停止してから行う。**

※ やけど・けがの原因になります。

● **給排気筒トップの掃除は定期的に行う。**

※ 排気筒トップに灰が付着したまま使用を続けると、燃焼不良の原因になります。

1 **給排気筒トップの網に付着した灰を掃除用ハケなどではらい落とします。**

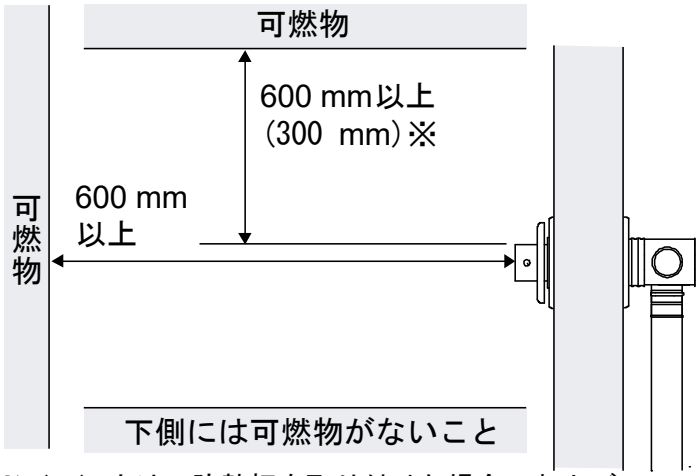


■給排気筒トップの位置

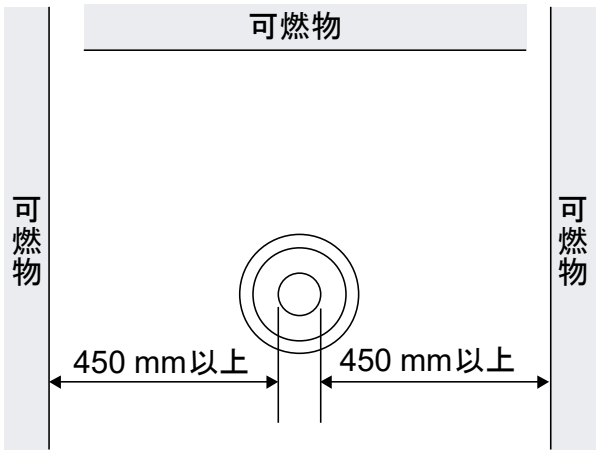
給排気筒トップと可燃物との距離は、右図に従って施工を行ってください。

！ お願い

- 給排気筒トップの周りには灰が飛散することがあります。灰で汚れる場合がありますので、付近にものを置かないようにしてください。



※（ ）内は、防熱板を取り付けた場合、および「不燃材料で有効に仕上げをした建築物の部分など」との寸法を示す。



■給排気筒と可燃物との離隔距離（断熱施工をしない場合）

排気筒と可燃物との離隔距離は排気筒の半径（40 mm）以上としてください。

5.9 給排気筒の点検

シーズン初め

点検

⚠ 警告

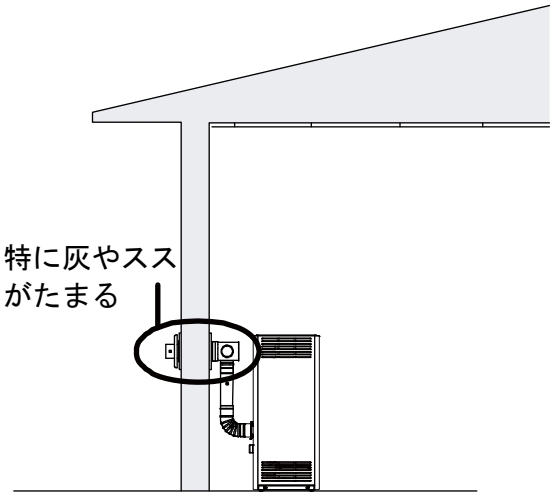
● 給排気筒が正しく接続され、すき間がないか点検する。

※ 排気ガスが室内に洩れて危険です。

● 給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないか確認する。

※ 排気ガスを再度吸い込み、不完全燃焼の原因となります。

- シーズン初めには必ず点検し、鳥の巣や異物が入ったりしているときは、必ず掃除をしてください。
- 横引きが長いと灰やススがたまりやすいので掃除をしてください。



5.10 販売店による定期点検

1シーズンに1回

点検

⚠ 注意

正常な機能を維持するために定期点検を行う。

※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

1シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。

6　部品交換のしかた

部品交換が必要なときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

消耗・劣化しやすい部品	対応
●ロストル / ●点火ヒータ ●排気ファン / ●電源ヒューズ ●燃焼板 /●各種パッキン	お買い求めの販売店にご相談ください。
●ロストル囲い	お客さま自身での部品交換ができます。 （☞47～48ページ）

⚠ 注意

点検・手入れは、消火後ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行う。

※ やけど・けがの原因になります。

交換部品は、純正部品を使う。（ヒューズを除く）

※ 他の部品を使用するとけがや事故の原因となります。

燃焼室内を掃除するときや燃料を補給するときは、必要に応じてマスクを使用する。

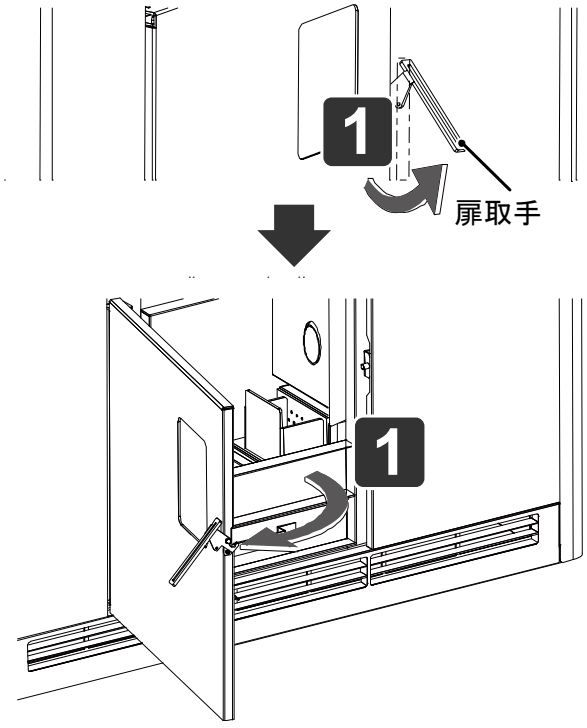
※ ススやおが粉を吸い込むと健康に影響を及ぼすおそれがあります。

6.1 ロストル囲いの交換

1 **本体が常温になってから、扉取手を手前に引き、燃焼室扉を開けます。**

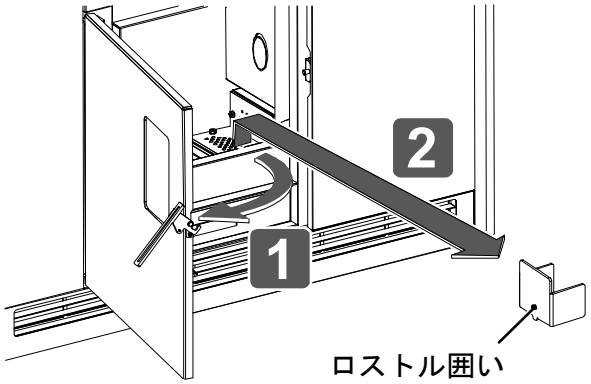
お知らせ

- 燃焼室扉を開けるとき、クリーニング機能（2）を使うと、飛散する灰を軽減できます。（☞27ページ）



2 ロストル囲いを取り外し、劣化を確認します。

- 付着した灰などを取り除いてください。
- 著しく錆びている場合、錆びによって板厚が薄くなっている場合または、変形している場合は交換してください。

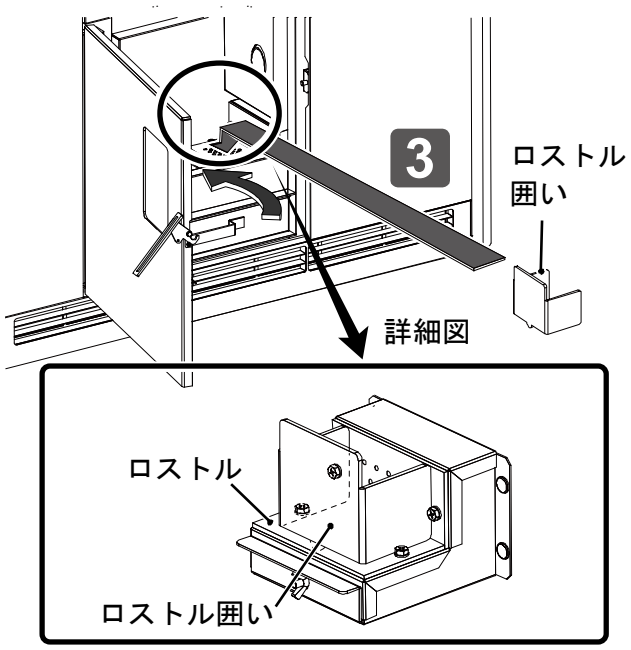


3 取り外しと逆の手順で取り付けをします。

- ロストル囲いの突起がロストルの溝に入るように取り付けてください

！ お願い

- ロストル囲いを取り付けるときは、図の位置に確実に取り付けてください。
- ロストル囲いが正しい位置にないとペレットが灰受けにこぼれたり、燃焼不良の原因となることがあります。



7　故障・異常時の対応

万一、具合の悪いときは下記の早見表にもとづいて点検し、処置に困るようなときや、原因のはっきりしないときは、お買い求めの販売店に連絡してください。

7.1 こんな症状が出たら

現　　象	原　　因	処　置　方　法	参照ページ
初めて使用するとき煙やにおいが出る	防錆油や塗装が焼けるため	異常ではありません 部屋の換気をしてください	―
正常な操作でも点火しない（ただし、点火安全装置がはたらき、「Er.05」が表示されているときは、53 ページを参照してください）	点火ヒータが切れている	点火ヒータの交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	59
すぐに点火しない	点火するまで５分程度かかります	異常ではありません	―
各（おはようタイマー、運転）ランプが点灯しない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグをコンセントへ差し込む	18
	停電している	通電を待ち、復帰後再点火する	20 24
	ヒューズが切れている	電源ヒューズの交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	59
運転中突然失火した	停電があった	通電を待ち、復帰後、ロストルを掃除してから再点火する 時刻・タイマーは再設定してください	20 24
	タンクにペレットが入っていない	運転 入/切 を押し、運転が停止してからペレットを補給し、再点火する	16 20

現　　象	原　　因	処　置　方　法	参照ページ
火力調整ボタンを押しても火力が変わらない	制御基板の故障	制御基板の交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	59
運転開始時や消火中に金属がきしむ音がする	本体内部が熱により膨張、収縮するためです	異常ではありません	－
木質ペレットが出ない	異物の混入	異物を取り除く お買い求めの販売店に修理依頼してください	－
	燃料送りモータの故障	モータの交換 お買い求めの販売店に修理依頼してください	59
	タンクにペレットが入っていない	タンクにペレットを補給し、クリーニング機能(1)を使ってペレットがロストルに落ちてくることを確認する	16 26
	前回、点火動作時にコンセントが抜かれた、あるいは停電が起きたなどの理由で安全装置がはたらいている	そのまま運転を継続すると、およそ10分後に安全装置が解除されます。（点火失敗エラーが出る場合がありますが、消火動作が終了するのを待ちロストルの掃除をしてから再度運転操作をしてください）	32 53
燃焼中、黒煙が出る	排気ファンのゴミ詰まり、排気ファンモータの故障	お買い求めの販売店に修理依頼してください	59
	給排気筒の詰まり	掃除をする	44
	ロストルにクリンカができている	付属品の掃除ブラシでクリンカを落とす	37
	ロストル、灰受、バッフルに灰がたまっている	灰の掃除をする	32 34 40
	給排気筒から逆風が入る	給排気筒の逆風防止 お買い求めの販売店へご相談ください	59

給排気筒先端から連続的に白煙が出る	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためです	異常による白煙ではありません	ー
爆発燃焼した	点火時のペレットが多いため、大量に発生した燃焼ガスに点火し、一気に燃焼した	爆発燃焼により本体が変形していないか点検が必要です お買い求めの販売店に点検依頼してください	59

7.2 こんな表示が出たら

現　　象	原　　因	処置方法(1)	処置方法(2)
Er. 00 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	制御基板の故障	1 運転 入/切 を押します。 ➡ ブザーが鳴り止みます。 ➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。	お買い求めの販売店へ連絡してください。
Er. 01 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	ストーブが異常に過熱したとき （過熱防止装置）	2 運転 入/切 を押します。 ➡ 表示が「P1 --」に戻ります。	本体が常温になってから、再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）
Er. 03 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	地震発生または強い振動がストーブに加わったため感震器が作動 （対震自動消火装置）		☞55ページ

現　　象	原　　因	処置方法(1)	処置方法(2)
Er. 05 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	点火失敗 （点火安全装置） ・ 点火動作で火がつかなかったとき ・ ペレットがロストルに落ちてきていない ・ 火がついても温度センサが温度上昇を検知できなかったとき	1 運転 入/切 を押します。 ➡ ブザーが鳴り止みます。 ➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。 2 運転 入/切 を押します。 ➡ 表示が「P1 --」に戻ります。	☞26・29・32ページ クリーニング機能(1)を使ってペレットがロストルに落ちてくることを確認してから、再度、運転操作をする。 点火時のペレットの量を調整する。 ロストルの掃除を行い、再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）
Er. 02 (ブザーが鳴り続ける)	逆火 ・ 燃料供給部、タンクが高温になっている。		燃焼室扉、タンクフタがしっかり閉まっていることを確認してください。また給排気筒の先端が障害物などでふさがれていないことを確認し、再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）
Er. 04 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	燃料送りモータ 過負荷 ・ 燃料に石、金属などの異物が混入している ・ 非常に硬い(長い)ペレットが混入している ・ 粉が多いペレットを使用している。		タンク内に異物が入っていないか確認し、再度、運転操作をする。（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）

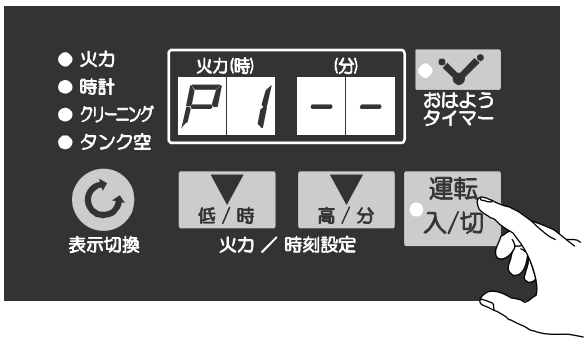
現　　象	原　　因	処置方法(1)	処置方法(2)
Er. 06 Er. 07 Er. 08 Er. 09 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	温度センサの故障	**1** 運転 入/切 を押します。 ➡ ブザーが鳴り止みます。 ➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。 **2** 運転 入/切 を押します。 ➡ 表示が「P1 --」に戻ります。	お買い求めの販売店へ連絡してください。
Er. 10 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	失火 • 燃焼中に炎が消えたとき • 燃焼中に温度センサが設定温度よりも低い温度を検知したとき • タンク内の燃料（木質ペレット）が空になった		タンク内が空の場合は、燃料（木質ペレット）を補給し、クリーニング(1)を使ってペレットが落ちてくることを確認してから再度、運転操作をする。 再度運転操作をする際は、必ずロストル上のペレットや灰を掃除してから行ってください。 ☞16・26・32ページ タンク内に異物が入っていないか確認し、再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）
Er. 12 (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)	排気ファン停止 • 排気ファンが回転していないとき • センサの故障		再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）

8　地震などの災害が発生したら

■消火のしかた

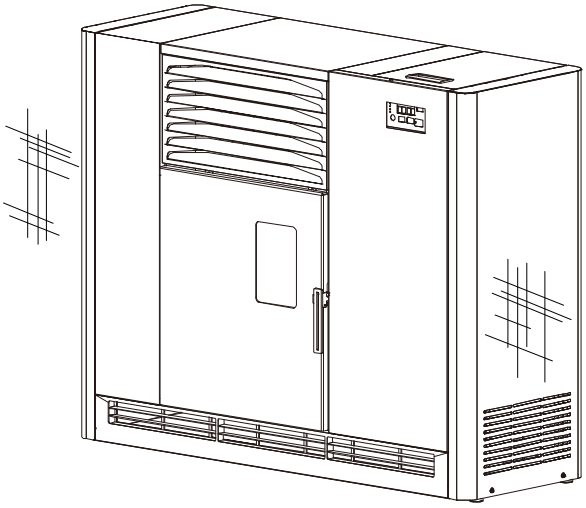
運転中、地震などの災害が発生した場合は、以下の方法を実施してください。

1　運転 入/切　**を押します。**



お知らせ

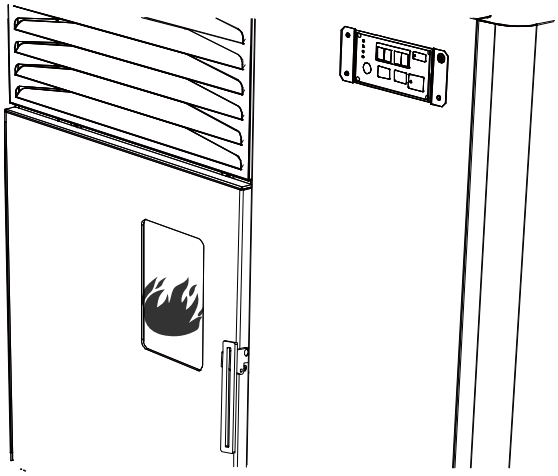
- 地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。（約30分後）



■再点火のしかた

地震などによって対震自動消火装置が作動した場合、周囲の可燃物、ストーブの損傷、給排気筒の外れなど異常がないことを確認してから再点火してください。

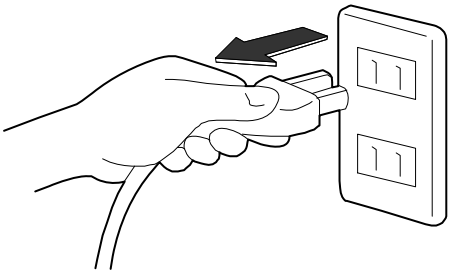
（☞「3　使用前の準備と確認」、「4　使いかた」）



9　保管（長期間使用しない場合）

シーズンオフや長期間使用しないときは、次の要領で手入れを行い保管してください。

1 **電源プラグをコンセントから抜きます。**



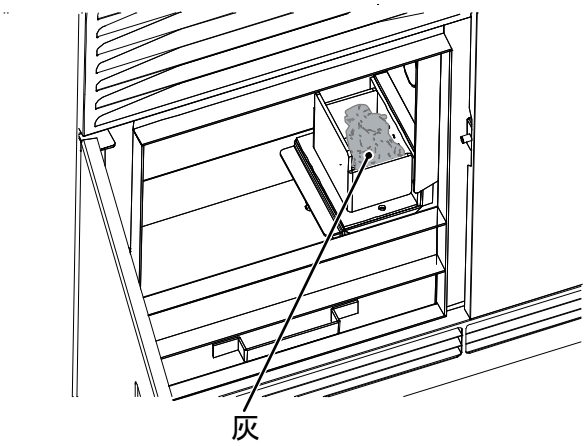
⚠ 注意

長期間使用しないときは電源プラグを抜く。

※ 守らないと、火災や事故の原因になります。

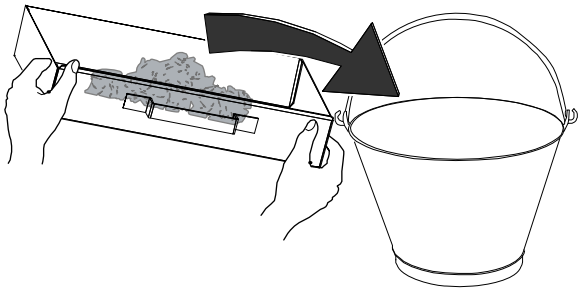
2 **燃焼室扉を開けて、ロストルの灰を灰受に落とします。**

（☞32ページ）

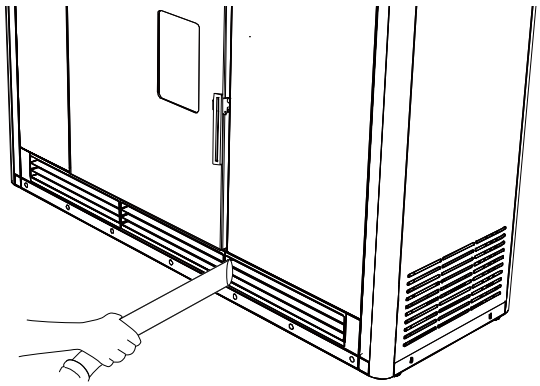


3 **灰受バッフルの灰を捨てます。**

（☞34、40ページ）

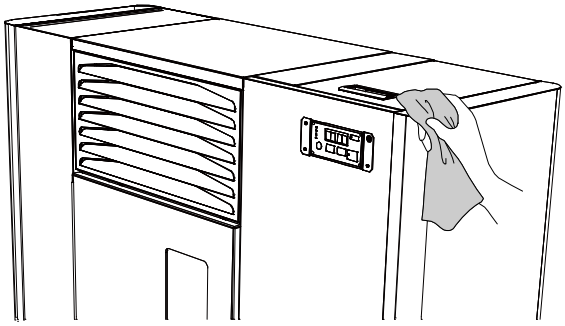


4 **タンク内、燃焼室内、温風吹出口、灰受に付着したススや灰を掃除機を使って取り除きます。**



5 汚れは固く絞ったやわらかい布でふき取ります。

（☞43ページ）

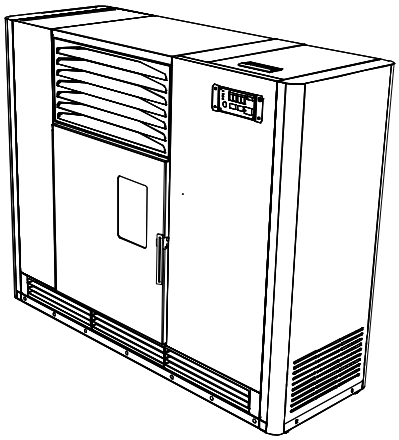


！ お願い

- 燃焼室扉や温風吹出口など遠赤黒塗装がされている部分は乾ふきのみにしてください。水ふきをすると塗装がはがれることがあります。

6 ストーブを保管します。

- 取扱説明書は大切に保管してください。



１０ 仕様

型式		PS-1312F
暖房方式		直接送風燃焼式・強制給排気形・強制対流形
点火方式		ヒータ点火式
使用燃料		木質ペレット（ホワイト・全木）
燃料消費量	最大	3.0 kg/h
	最小	1.2 kg/h
発熱量（入力）	最大	53100 kJ/h ※1
	最小	21240 kJ/h ※1
暖房出力	最大	11.8 kW
	最小	4.5 kW
暖房の目安（※1）	温暖地	木造30畳（49.5 m^2）まで
		コンクリート41畳（67.5 m^2）まで
	寒冷地	木造31畳（51.0 m^2）まで
		コンクリート48畳（79.0m^2）まで
外形寸法		高さ893 mm　幅1115 mm　奥行き395 mm
質量		120 kg
タンク容量		21 kg
電源電圧および周波数		100V　50／60 Hz
定格消費電力		点火時平均　350 W ／ 点火時最大　890 W
		燃焼時　40-80 W
給排気筒径		給気　60 mm ／ 排気　80 mm
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置 点火安全装置・燃焼制御装置
付属品		掃除用ハケ、ロストル囲い、お掃除ボックス

※1　暖房の目安の寒冷地とは、室内外温度差が30℃の地域を指し、温暖地とは、室内外温度差が15℃の地域を指します。
寒冷地の木造とは、木造戸建二重窓、断熱材75 mmの建物を指し、コンクリートとは、コンクリート集合住宅の二重窓、断熱材30 mmの建物を指します。

- 暖房の目安は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。
- 暖房出力は、木質ペレットの発熱量、17700 kJ/kgを基に算出しています。
- 製品改良のため、デザイン、仕様の一部を変更することがあります。

１１　保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ·転居などのご相談は、お買い求めの販売店へお申し付けください。

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い求めの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。
保証期間：納品した日から1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このストーブの補修用性能部品を、製造打ち切り後12年保有しています。
注）　補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

「7　故障・異常時の対応」に従ってご確認のあと、なおらないときはまず電源プラグを抜いて、お買い求めの販売店へご連絡ください。

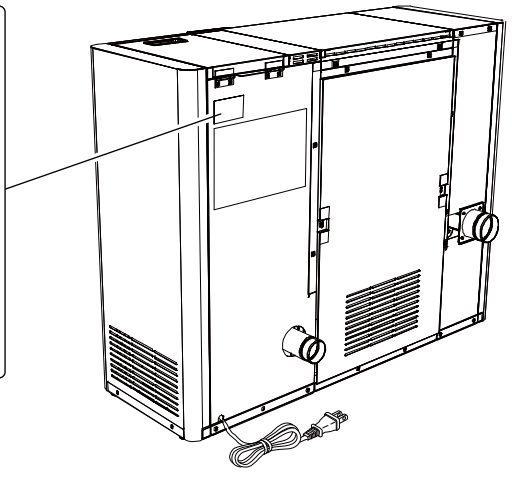
- 保証期間中は
  保証書の規定に従って、修理をさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理ご相談窓口

お買い求めの販売店またはお客さま相談窓口（☞61ページ）にお申し付けください。

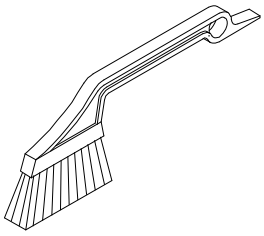
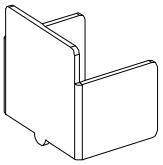
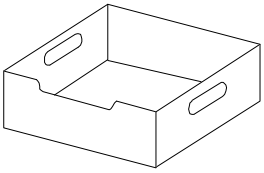
銘板

規格名称	密閉式ペレットストーブ		
種　　類	直接送風燃焼式、強制給排気形、強制対流形		
型　　式	PS-1312F		
製造番号	908891-		
使用燃料	木質ペレット	タンク容量	21kg
暖房出力	11.8kW	燃料消費量	3.0kg/h
熱 効 率	最大燃焼時80%、最小燃焼時77%		
電源電圧	100V	周波数	50Hz/60Hz
消費電力	点火時890W、燃焼時40-80W		
株式会社山本製作所			

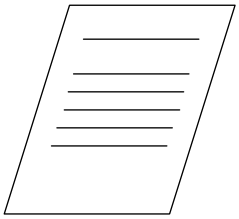
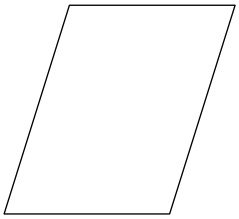
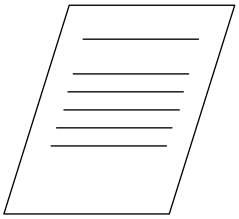
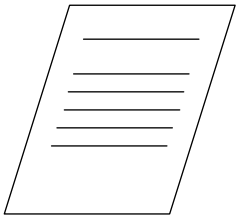


１２ 付属品、添付品リスト

■付属品

□ 掃除用ハケ ..... 1本 	□ ロストル囲い..1個 	□ お掃除ボックス .....1個 	

■添付品

□ 保証書 .....1式 	□ 取扱説明書（本書） ... 1冊 	□ 安全確認シート .....1式 	□ 試運転注意シート.. 1枚 

製造元　株式会社山本製作所

お客さま相談窓口

環境関連機器担当窓口 TEL (0237) 43-8814

修理を依頼される場合には、お買い求めの販売店へご連絡ください。

お買い求めの販売店

店舗名

住所

TEL.

担当者名

販売された販売店の方は、こちらに連絡先を記載してください。

こちらの欄には、お買い求めの販売店担当者の
名刺を貼り付けるなど、ご活用ください。

株式会社 山本製作所

本社
山形県天童市

東根事業所
999-3701
山形県東根市大字東根甲5800-1
TEL. 0237-43-8814

※所在地や電話番号は変更になることがあります。

190889-930100
2025.01